



List All Images [Share](#) [Tweet](#)

1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ NO.364

# ドイツ対戦車自走砲 マードーⅢM (ノルマンディ戦線)

★履帯は部分連結式として、上部のたるみリアルに表現。  
★乗員などの全身像4体と半身像1体、ノルマンディ戦線のデカール2種類付き。  
接着剤・塗料別売

# GERMAN TANK DESTROYER MARDER III M "NORMANDY FRONT"

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.

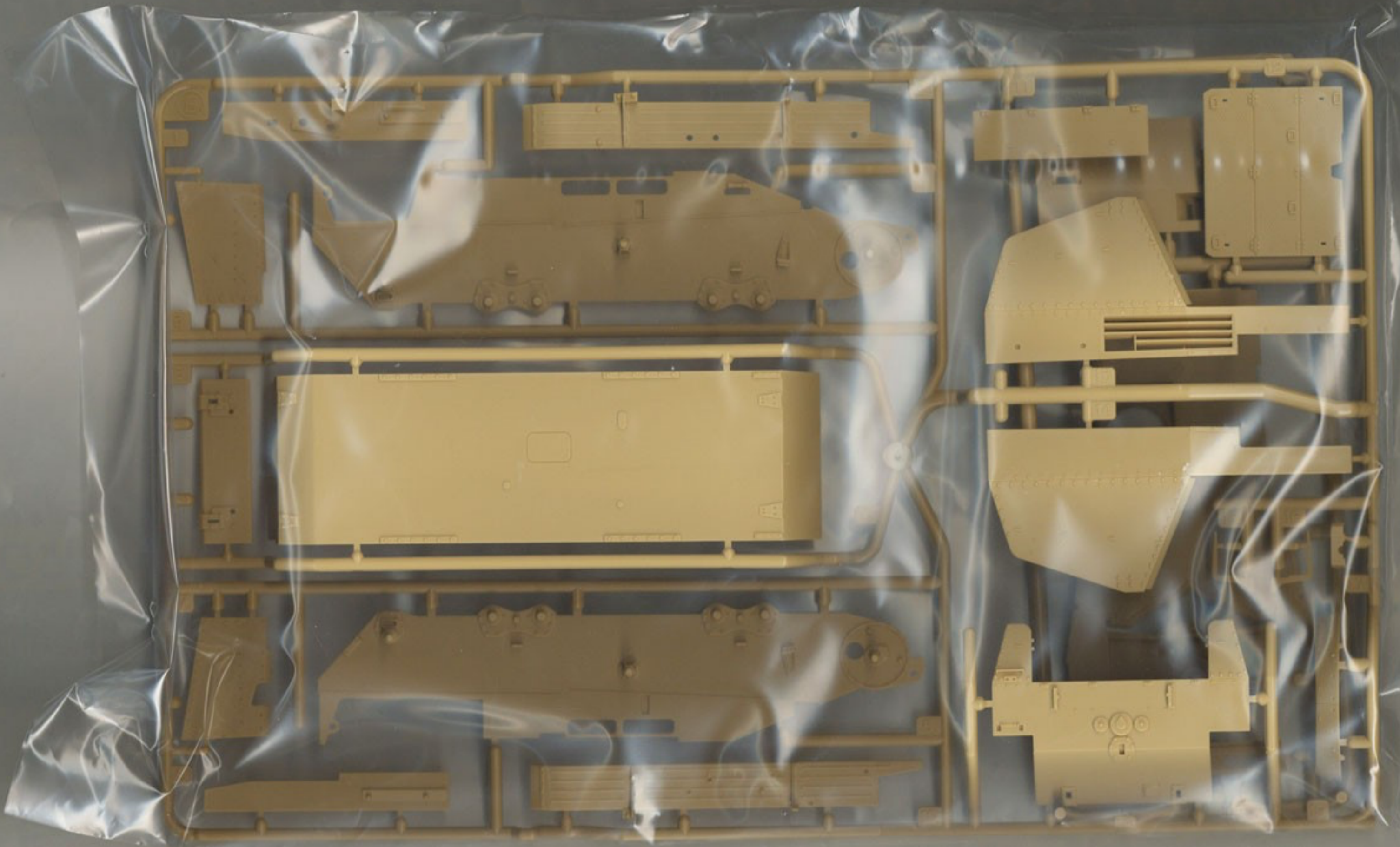
★ACCURATELY CAPTURES THE LOW-PROFILE FORM OF THE MARDER  
★REALISTIC FIGHTING COMPARTMENT INTERIOR ★ASSEMBLY TYPE TRACKS FEAT  
ONE-PIECE STRAIGHT SECTIONS ★INCLUDES PHOTO-ETCHED EXHAUST CO  
5 FIGURES (4 FULL BODY, 1 TORSO) & 2 NORMANDY FRONT MARKING OPT



★READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT  
★DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY  
★MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX ★CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED



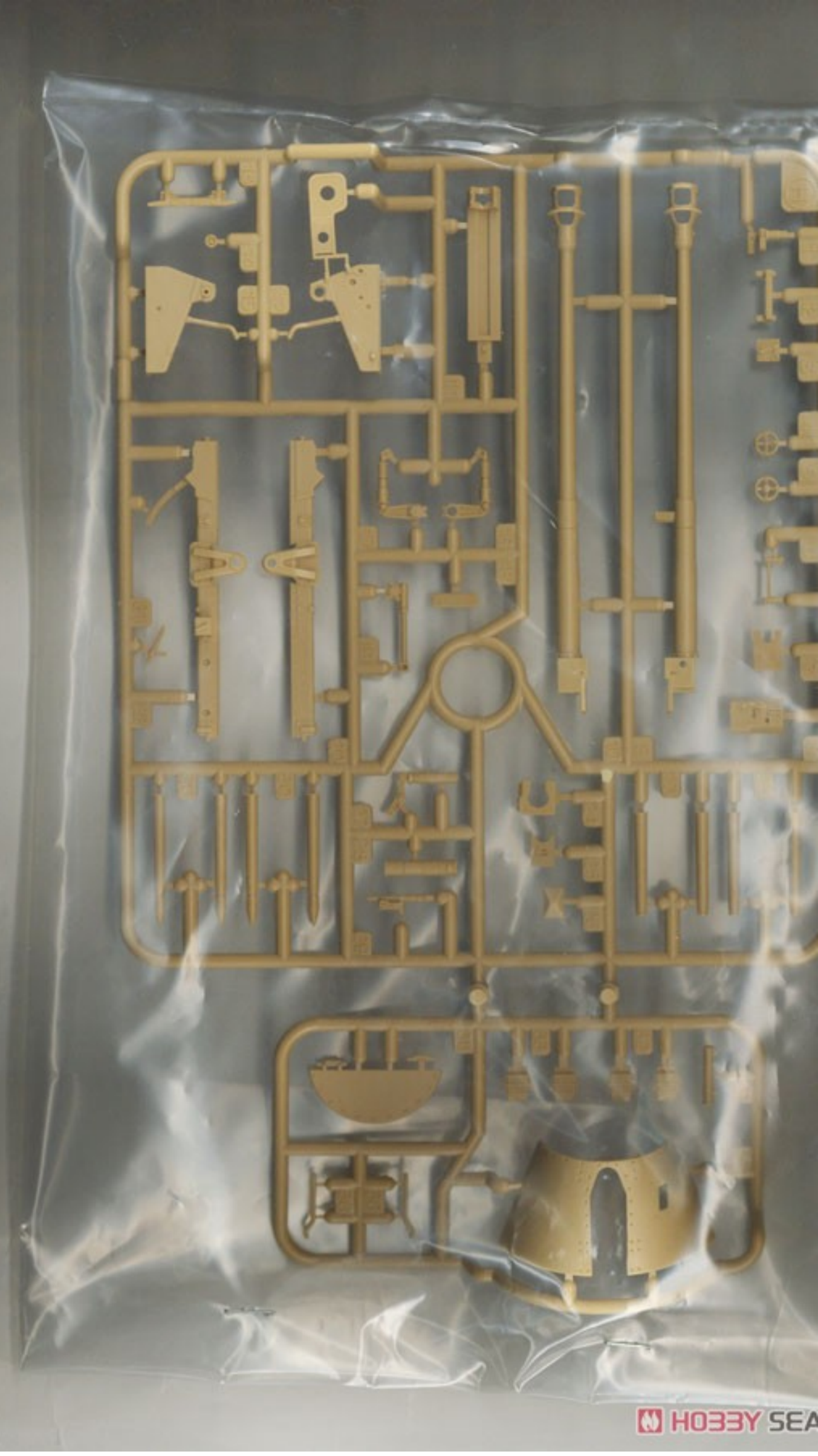




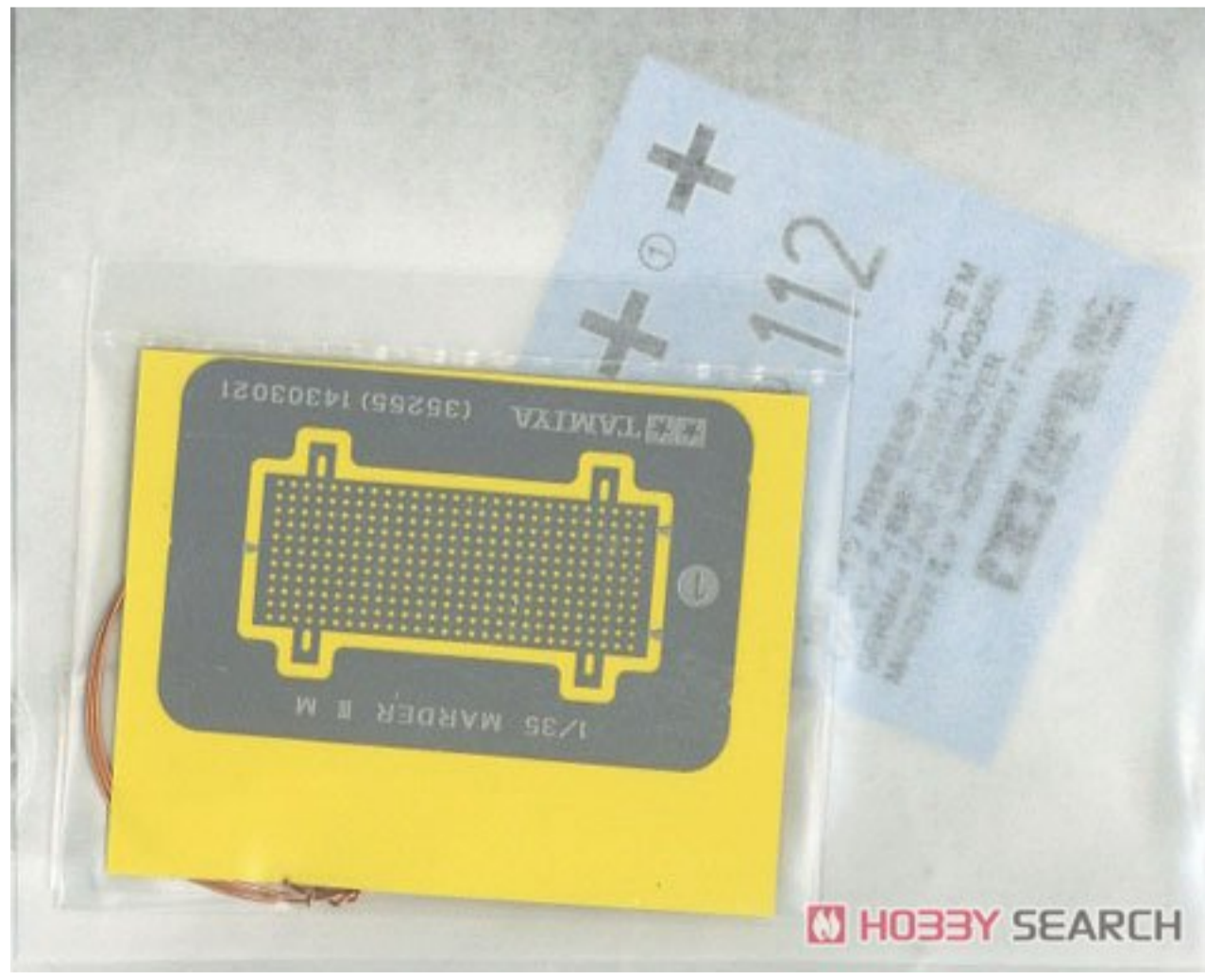
HOBBY SEA



HOBBY SEA



HOBBY SEARCH



HOBBY SEARCH

## ■ドイツ軍の対戦車自走砲開発とマードーIIIの誕生

第二次世界大戦の緒戦において、戦車を中心とした機械化装備の集中投入によってポーランドを下したドイツ軍は、その画期的な電撃戦の裏に大きな弱点を隠していました。それはドイツの不十分な工業力による機械化装備の不足でした。再軍備による急速な部隊の拡張により、戦車などの機械化装備が絶対的に不足していたのです。ましてや歩兵部隊などは、機械化どころか自動車化も不十分で、昔ながらの歩兵と変わるところがありませんでした。しかし、ポーランドでの電撃戦の経験から、歩兵部隊にも従来の牽引式対戦車砲だけでなく、機動力を持った対戦車火力が必要とされるようになりました。こうして開発されたのが、ドイツ軍最初の対戦車自走砲4.7cm Pak(t)搭載I号戦車B型、いわゆるI号4.7cm対戦車自走砲でした。これは旧式化したI号戦車の車体を改造し、4.7cm対戦車砲を搭載した簡易な車輈でしたが、フランス戦で使用されてその実用性が高く評価されたのです。

1941年6月、ドイツ軍はロシアへと攻め込みました。ドイツ軍はロシア軍の戦力を過小評価していましたが、T34、KV重戦車といった恐るべき新兵器に出会うことになります。ドイツ軍はそれを撃破するために、新兵器の開発や既存兵器の性能アップとともに、対戦車自走砲の開発に尽力。こうして作り出された対戦車自走砲の一つが7.62cm Pak36(r)搭載38(t)対戦車自走砲、いわゆるマードーIIIでした。開発は1941年秋頃に開始され、ベースに選ばれたのは、チェコが生み出した38(t)軽戦車でした。この戦車はチェコ併合でドイツ軍のものとなったもので、初期



1218 ©2018 TAMIYA

のIII号戦車に匹敵する極めて優秀な戦車でした。ただ、念ながら軽戦車であり戦闘能力は限界を迎えていました。改造は装甲板で囲ったオープントップの戦闘室を設けて捕獲されたソ連製の7.62cm野砲を搭載していました。生産はチェコのBMM社によって1942年4月から開始され、10月までに合計344輈が完成。それ以外に、1943年に最終的に84輈が前線から引き上げられた38(t)戦車から改造されました（異説あり）。

## ■マードーIIIの発展とM型の登場

マードーIIIは十分有効な車輈でしたが、捕獲した砲を用いているのが問題でした。このため改良型として、ドイツ軍の制式対戦車砲7.5cm Pak40を搭載した車輈が開発されることになりました。これが7.5cm Pak40/3搭載38(t)対戦車自走砲H型、いわゆるマードーIII H型でした。開発は1942年5月に開始され、翌月にはプロトタイプが完成。しかし、工場はマードーIIIの生産に追われていたため、生産開始はその生産が終了した1942年11月からとなりました。H型は主砲が変更されただけでなく、戦闘室の設計も全面的に改められ、いっそう実用的な車輈となりました。本車は1943年5月までに275輈が完成し、さらに336輈が38(t)戦車から改造されました（異説あり）。

38(t)戦車の生産は1942年6月に終了し、以後その車体は自走砲用としてのみ生産されることになりました。当時すでに38(t)戦車車体からは、マードーIII、マードーIII H型そして15cm重歩兵砲グリレといった自走砲が生産されてきましたが、戦車型車体は自走砲用としては理想的とはいえませんでした。このため1943年初めから、BMM社はアケット社とともに、性能と生産性を高める目的で、自走砲用車輈の開発を進めてきました。こうして開発されたのが自走砲用車輈のM型でした。このM型車体を使用した対戦車自走砲型が、7.5cm Pak40/3搭載38(t)対戦車自走砲M型、いわゆるマードーIII M型です。プロトタイプは1943年3月に完成し、生産は5月から開始されました。M型は当初発注数である373輈に加えて、1943年10月には1,000輈追加発注されましたが、部品供給の遅れもあり生産は滞りみでした。そしてBMM社では、38(t)戦車をベースにして同じ7.5cm砲を搭載しながら、完全密閉式の戦闘室をつつ駆逐戦車ヘツァーの開発が進められていました。こ

ため、M型の生産は1944年6月に942輦が完成したところで終了となり、その後はヘッツァーに切り換えられました。

### ■マードーIII M型のメカニズムと特徴

M型車体は、自走砲用車体とするため、戦車型とは全く異なる構成となっていました。最大の特徴はエンジンが中央部に移されたことで、後部に砲を搭載するため十分な広さの戦闘室を設けることができました。なお38(t)戦車はフロントドライブのため、これまで通り変速機、起動輪の配置は変わりません。操縦室は車体前面右側に設けられました。この部分は良好な傾斜面で、これにより耐弾性もアップしました。装甲板上には操縦手の頭上スペースを確保するため、飛び出すように装甲カバーが取り付けられていました。これは当初は丸みを帯びた鋳造性でしたが、後期には生産性を上げるため、平面の装甲板を溶接したものに變更されました。なお車体前面も、形状は変わりませんでした。後期には装甲厚が増加していました。

車体後部の戦闘室は、前後左右が10mmの装甲板で囲まれ、それ以前のタイプよりは、良好に乗員を防護していました。なお上面はオープンのままです。このうち後部の装甲板は一部を倒して作業プラットフォームとして使用することができました。砲は限定旋回式で、砲前面にはH型同様湾曲した防盾を装着。乗員は車長、砲手、装填手、操縦手の4名でした。搭載砲は大戦中期以降、ドイツ軍の標準的対戦車砲となった7.5cm Pak40でした。Pak40はドイツ軍が1939年に開発を開始した対戦車砲で、1941年末に完成。その性能は通常の徹甲弾Pzgr39を用いて、初速790m/s、距離100mで106mm（垂直から30度傾斜）、500mで96mm、1,000mで85mmの装甲板を貫徹可能で、これによりT34等を遠距離で破壊できます。なお供給数が限られましたが、高速徹甲弾のPzgr40を用いると、初速990m/s、距離100mで143mm、500mで120mmという強力な性能を発揮できました。

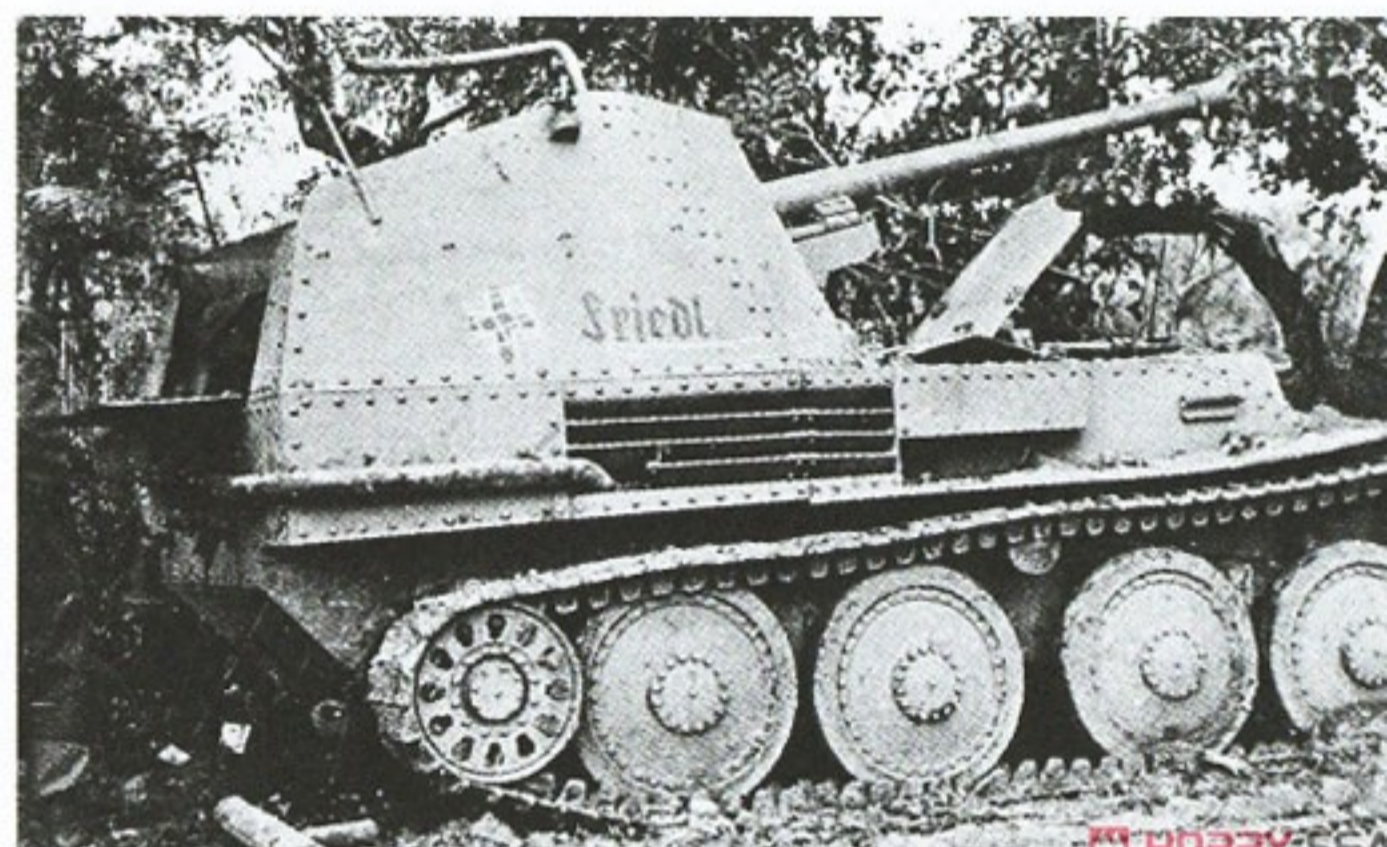
### ■マードーIII Mの部隊配備と戦歴

マードーIII Mは、当初独逸陸軍戦車大隊、その後1042

19空軍野戦師団、第1スキー旅団等に配備されています。

戦車駆逐大隊は3個中隊編成で、各中隊はそれぞれ4個のマードーIIIを装備する小隊3個から編成。加えて中隊本部に2輦、大隊本部に3輦のマードーIIIが配置されました。大隊の配備定数は45輦ということになります。ただし、実際にはあくまでも編成表の上の定数に過ぎず、実際の部隊の定数を満たしたことはほとんどありませんでした。ドイツ軍の記録では、マードーIIIのH型とM型は区別しておらず、実際に何輦のマードーIII Mが部隊で使用されたかは、記録の上からは判別不可能でした。

これらの部隊のうち、ノルマンディの戦闘に参加したものは、第243や第352歩兵師団、第2機甲師団、戦車教導師団、武装親衛隊第1LAH、同第12ヒトラー・ユーゲント機甲擲弾兵師団といったところでした。第2機甲師団、第1LAH、第12ヒトラー・ユーゲント機甲擲弾兵師団はカーン攻防戦、戦車教導師団はサン・ロー周辺で激戦を繰り広げたことが知られています。戦車が相対的に攻勢的に使用されるのに対して、マードーIII Mは動く対戦車砲として守勢的に使用されるため、あまり記録に残るような戦闘場面はあまりありませんでした。しかし圧倒的な連合軍の攻勢に抗し、粘り強く戦線を支え抜いた功績は忘れることができないでしょう。



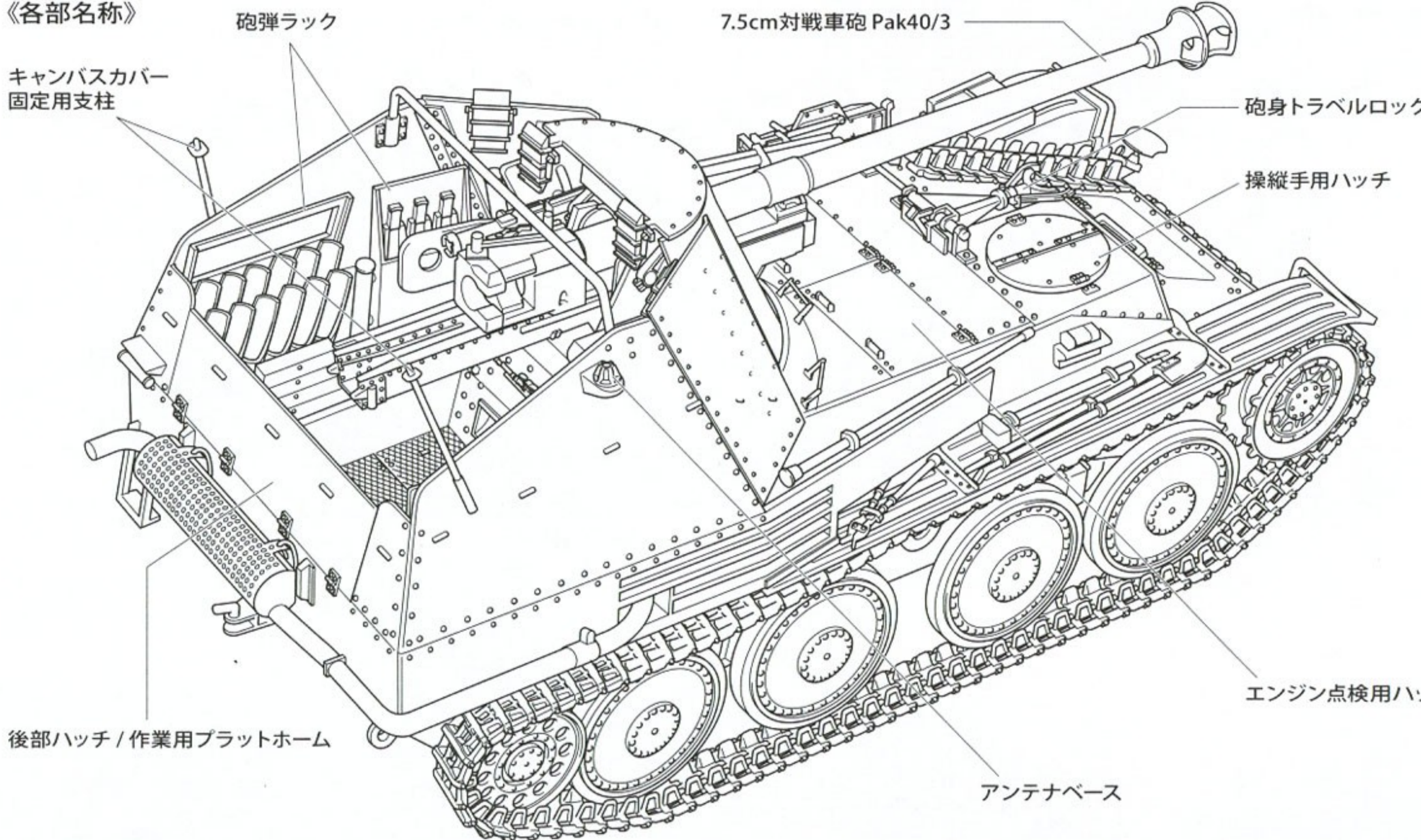
## ■マードーIII Mの部隊配備と戦歴

マードーIII系列は、当初独立戦車駆逐大隊、その後1943年夏からは機甲師団や機甲擲弾兵師団、歩兵師団に所属する戦車駆逐大隊にも配備されました。マードーIII Mの生産が開始された1943年5月以降の記録を見ると、機甲師団では第1、2、5、7、13、17、23、戦車教導師団、機甲擲弾兵師団ではグロスドイッチェラント、第10、20、武装親衛隊第1LAH、同第5ヴィーキング、同第12ヒトラー・ユーゲント、歩兵師団では第9、15、34、44、52、71、243や352、そしてその他第741、742、744戦車駆逐大隊や第

### 《マードーIII M 諸元》

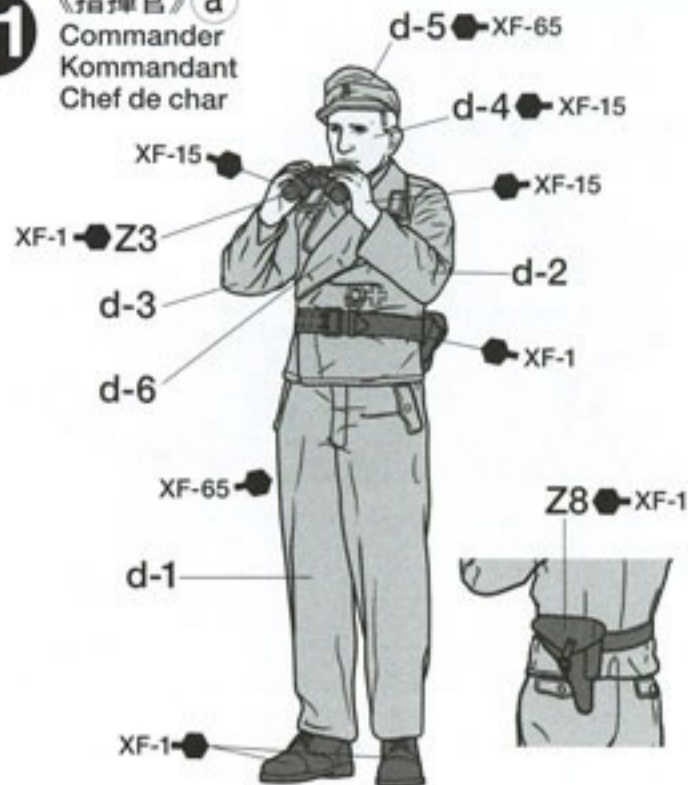
- 全長：4.95m ●全幅：2.15m ●全高：2.48m
- 戦闘重量：10.5トン ●乗員：4名
- エンジン：プラガ AC ガソリンエンジン
- 最大出力：150馬力/2,600回転 ●最大速度：42km/h
- 航続距離：190km（路上）
- 武装：7.5cm対戦車砲 Pak40/3×1
- 弾薬搭載数：27発

### 《各部名称》

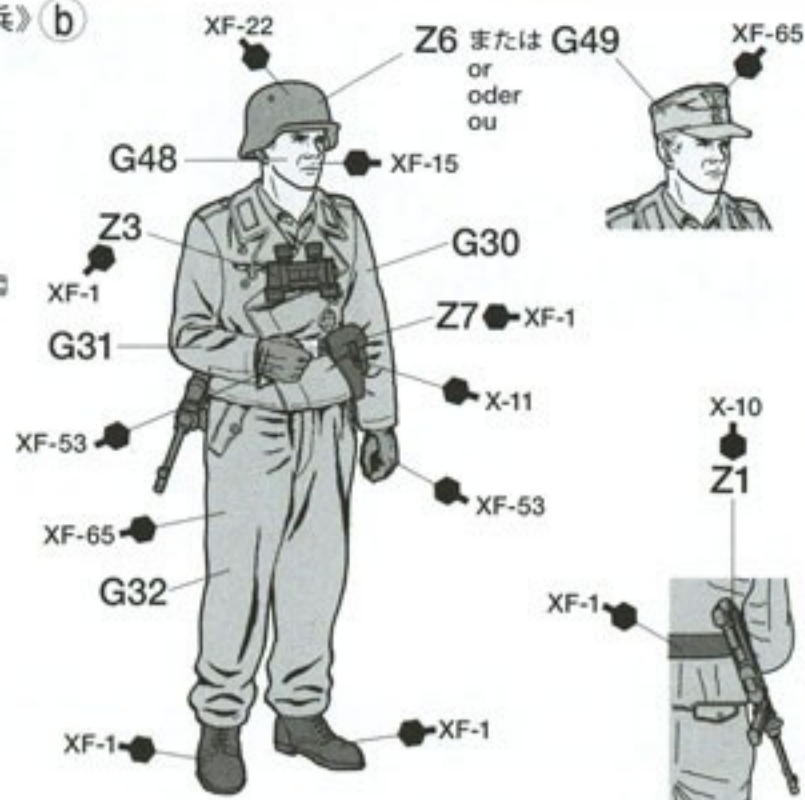


21

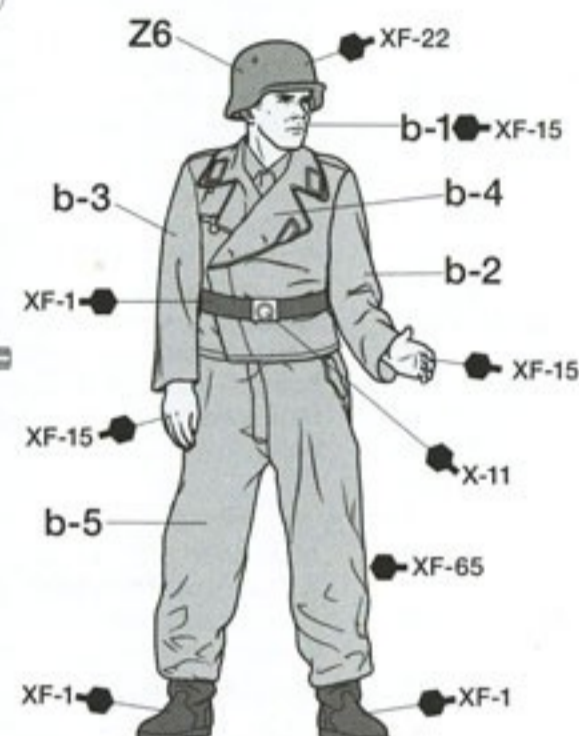
《指揮官》a  
Commander  
Kommandant  
Chef de char



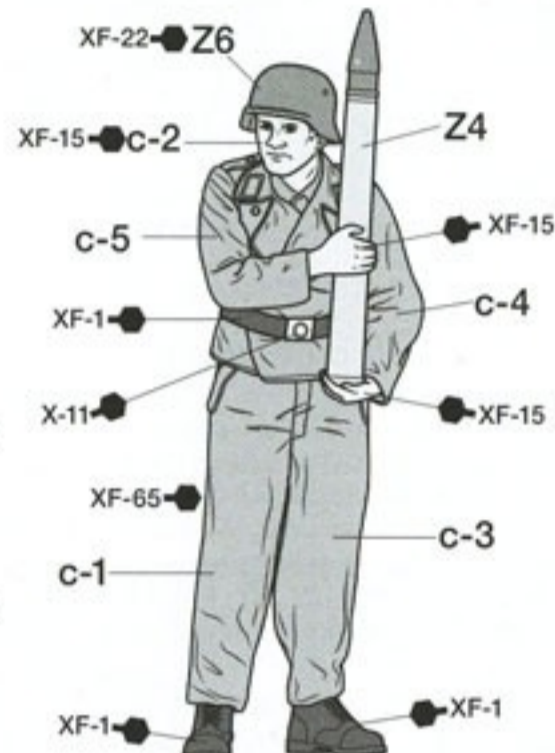
《装甲擲弾兵》b  
Grenadier



《砲手》c  
Gunner  
Kanonier  
Mitrailleur

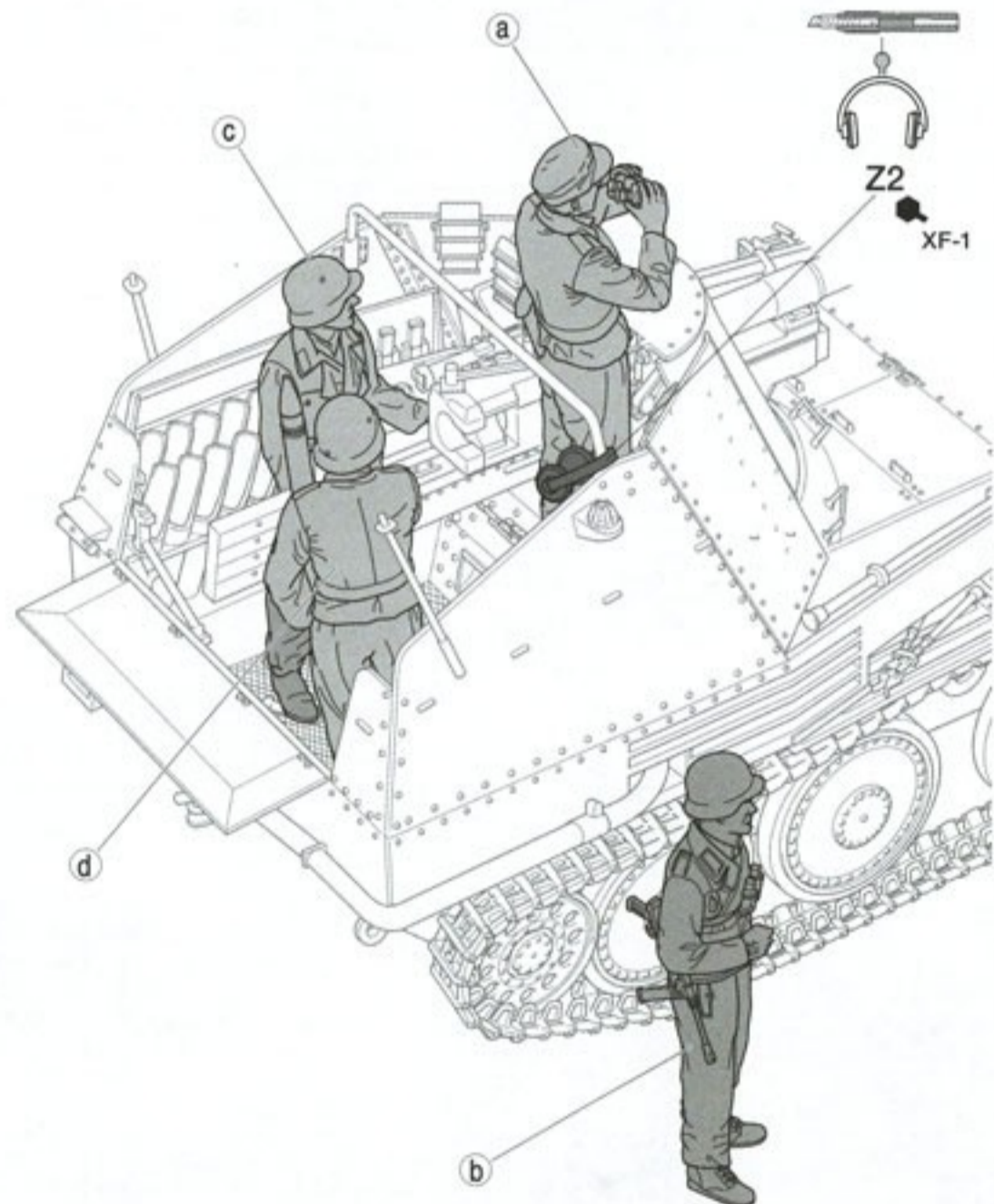
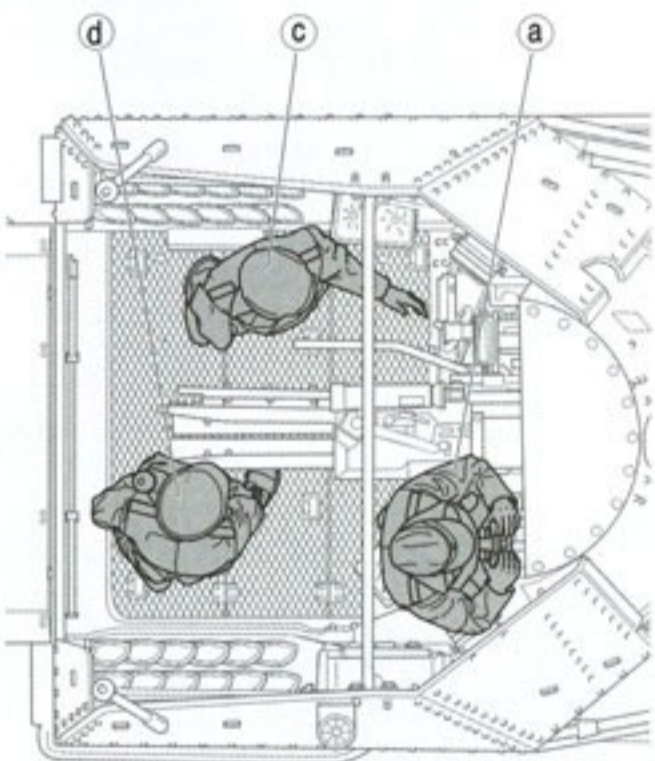


《装填手》d  
Loader  
Ladeschützen  
Chargeur



22

人形の取り付け  
Positioning figures  
Bemalung der Figur  
Suggestion de placement  
des figurines



《H23》



《H30》



★H23, H30, Z2は自由に配置してください。  
★Position H23, H30 and Z2 as you like.  
★H23, H30 und Z2 nach Belieben aufbringen.  
★Fixer H23, H30 et Z2 à son gré.



# GERMAN TANK DESTROYER MARDER III M



1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.364

## “NORMANDY FRONT”

### PAINTING & MARKING

**A** 《所属部隊不明 1944年夏 ノルマンディ》  
Unit unknown, Normandy, Summer 1944



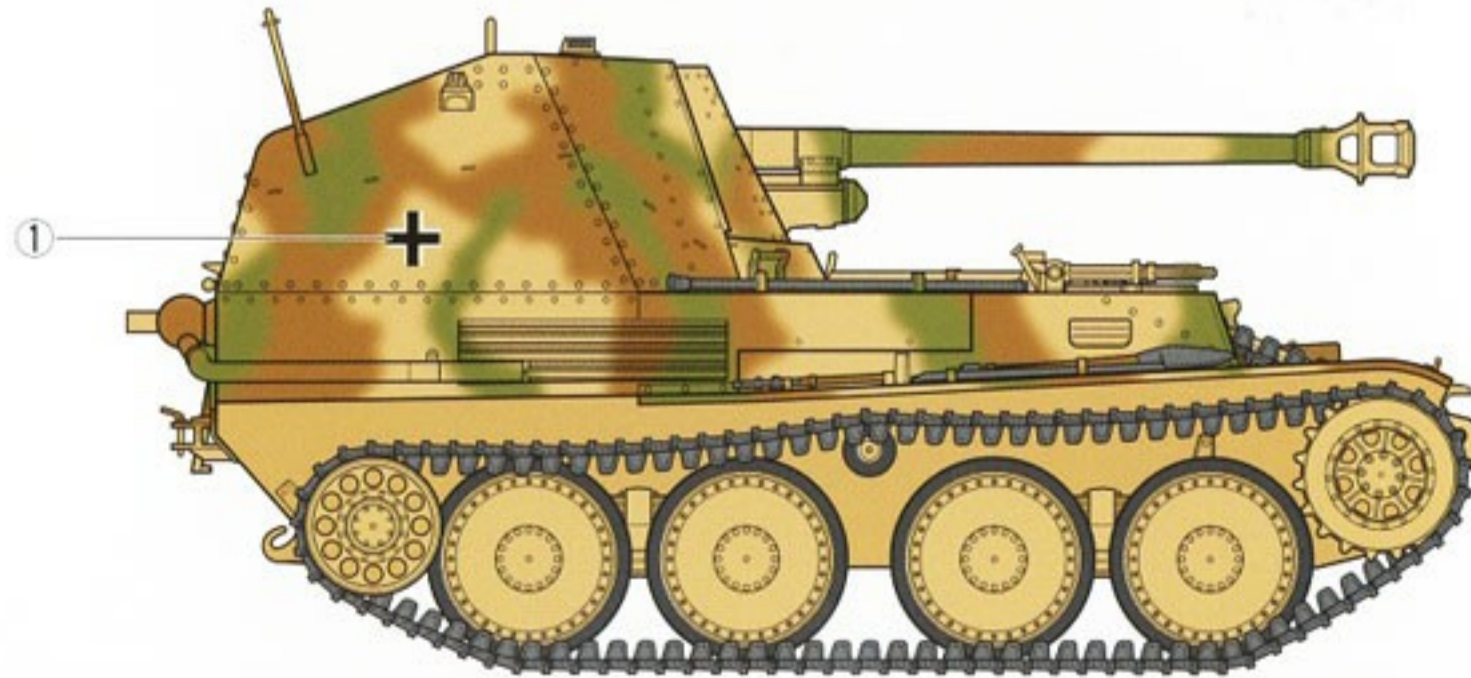
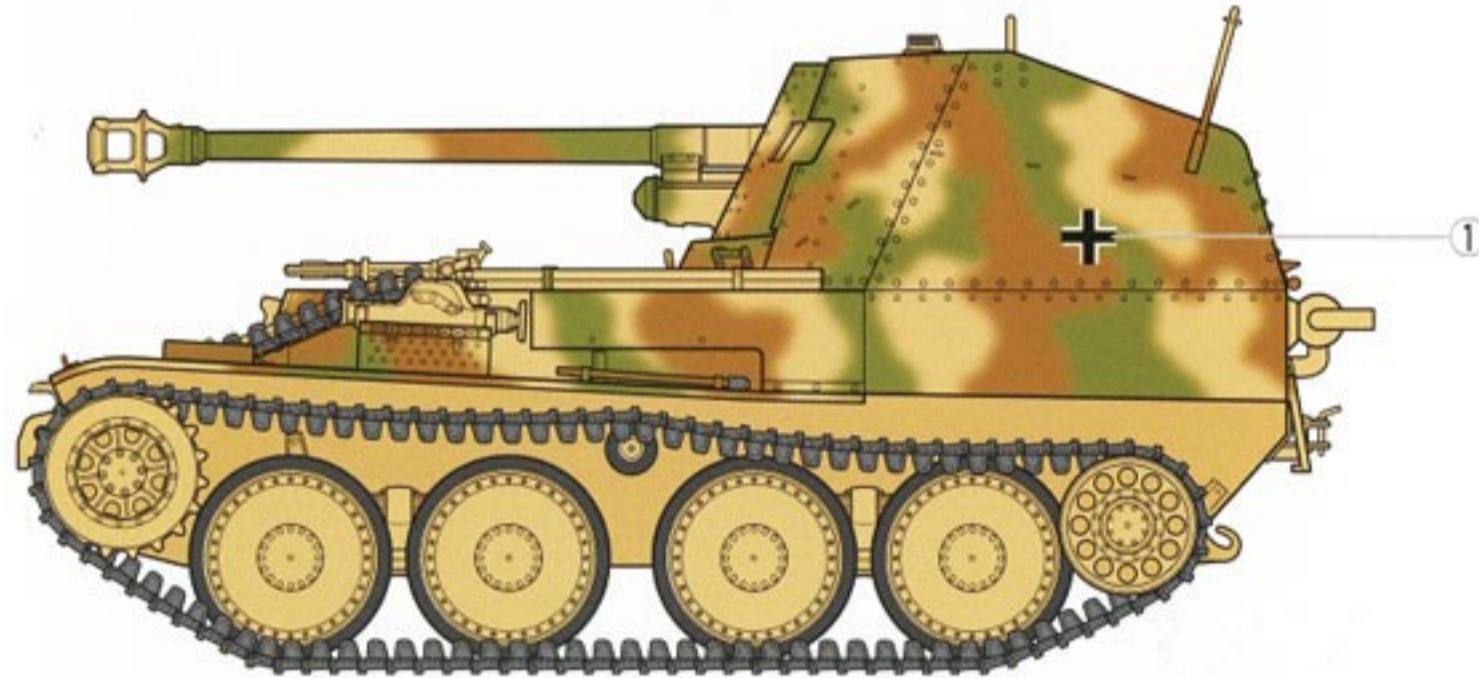
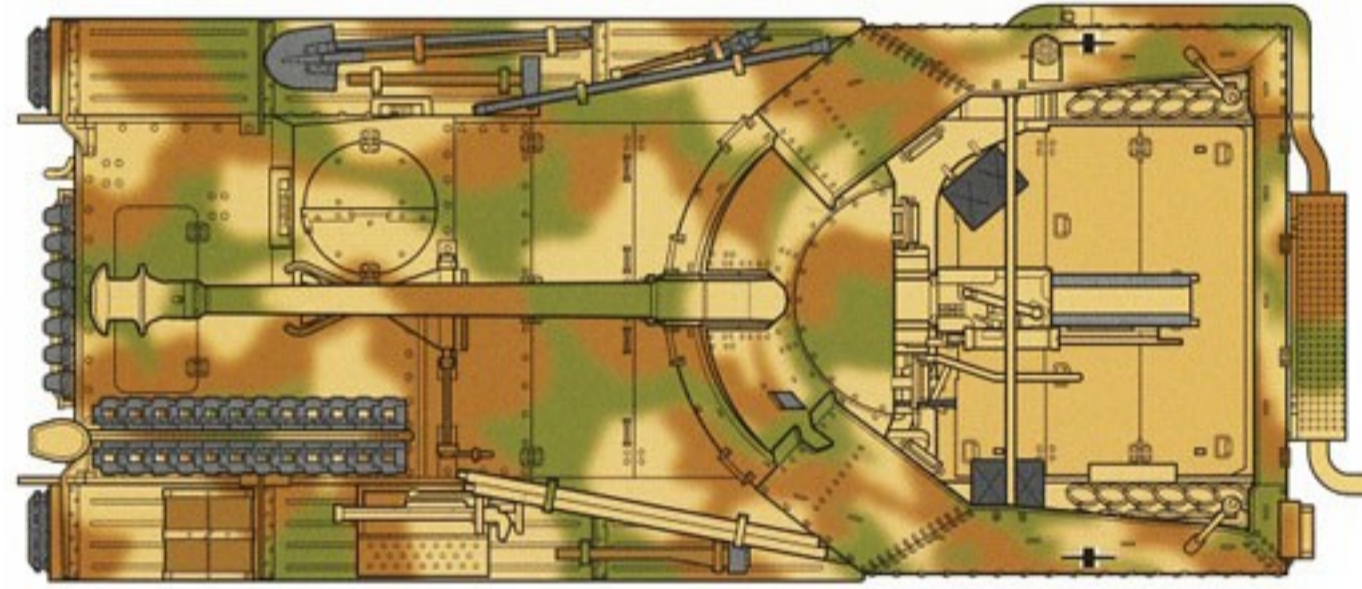
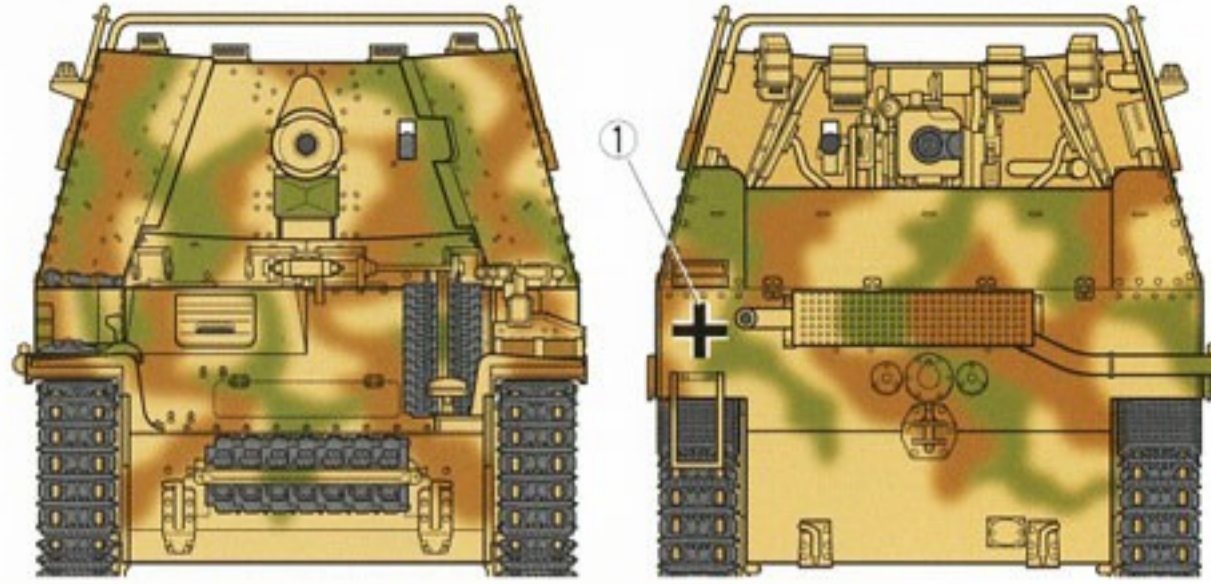
TS-1 (XF-64)  
レッドブラウン  
Red brown



TS-2 (XF-61)  
ダークグリーン  
Dark green



TS-3 (XF-60)  
ダークイエロー  
Dark yellow



**B** 《第352歩兵師団 第352戦車駆逐大隊 1944年夏ノルマンディ》  
 352<sup>nd</sup> Panzerjäger Battalion, 352<sup>nd</sup> Infantry Division, Normandy, Summer 1944



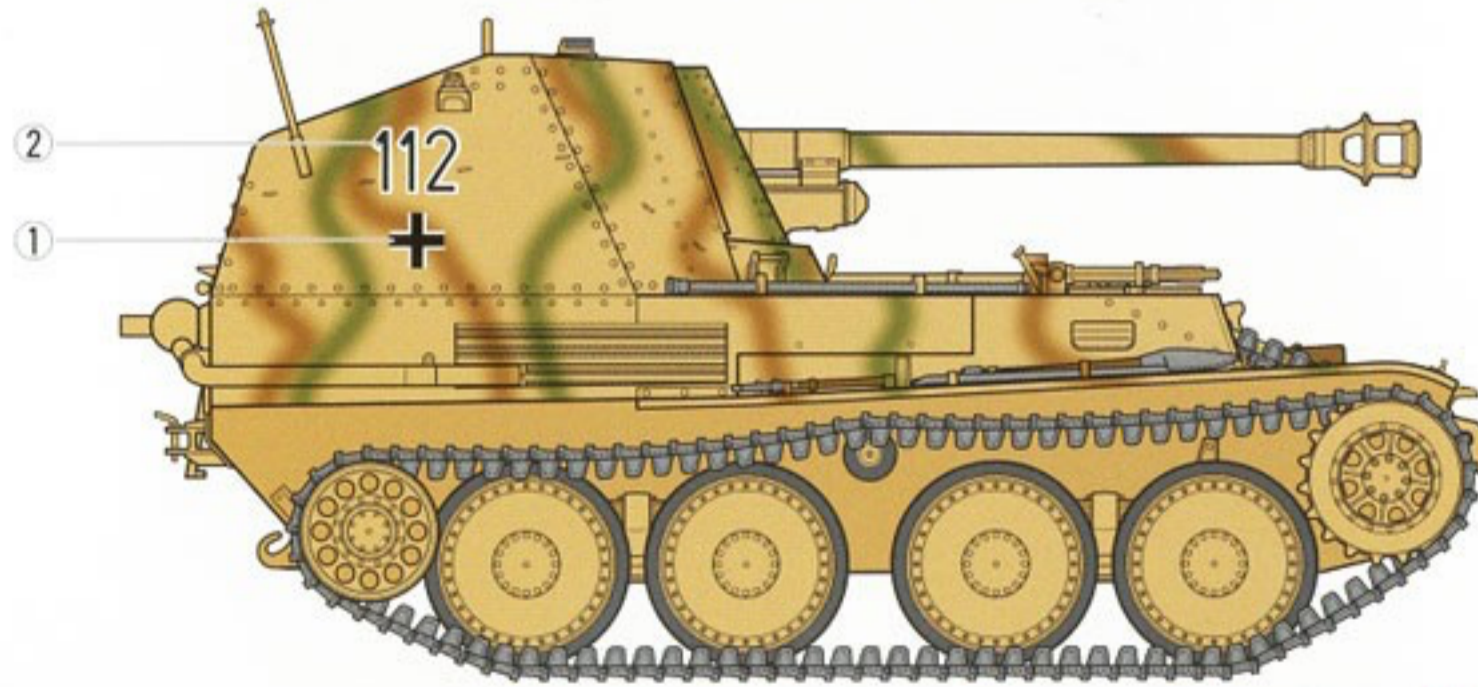
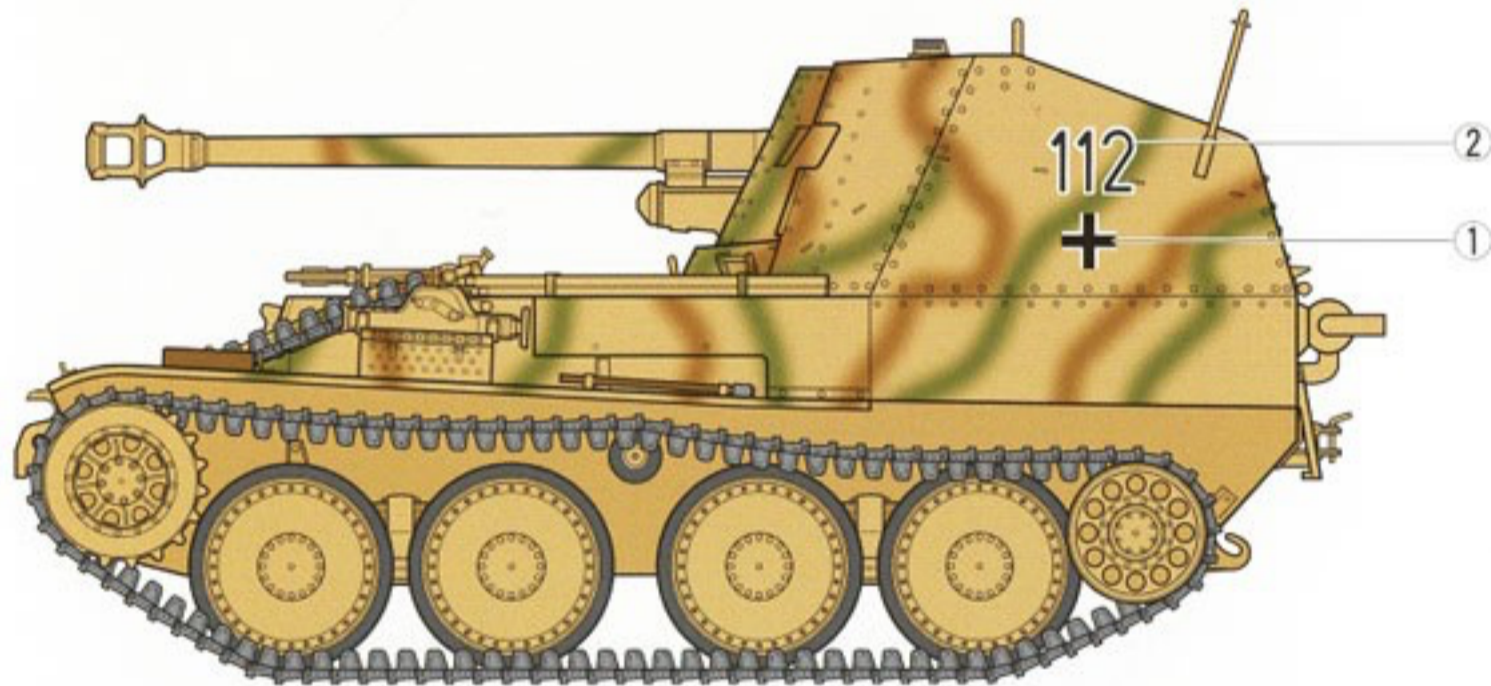
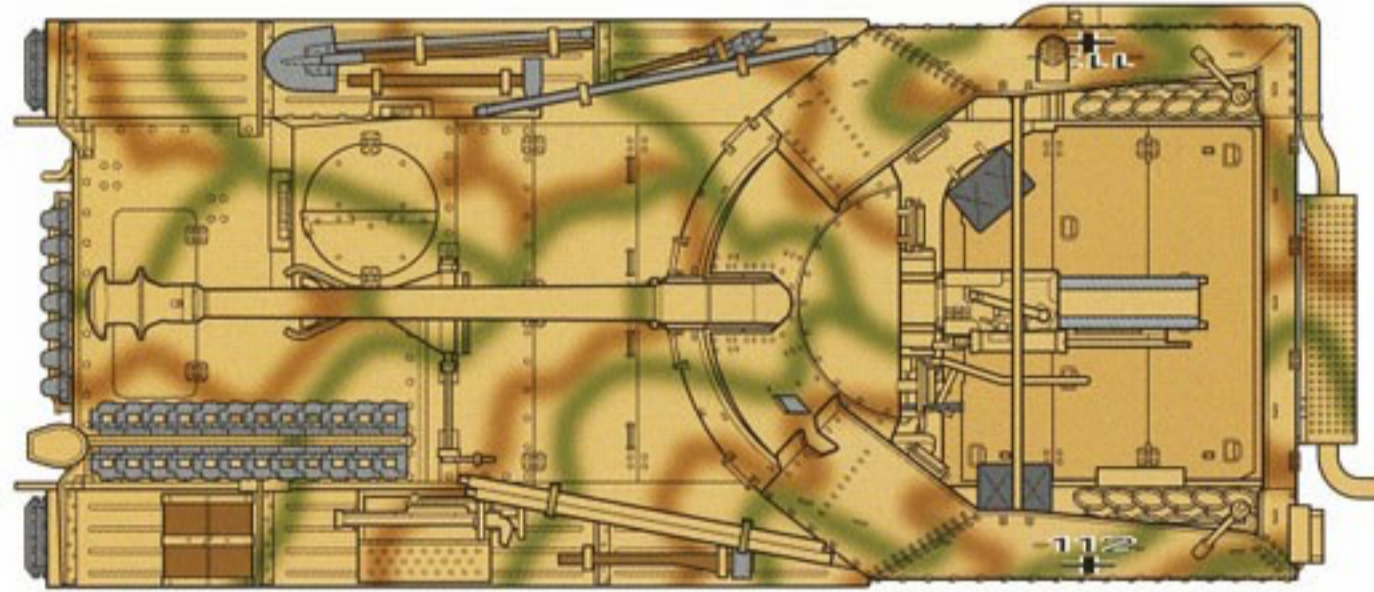
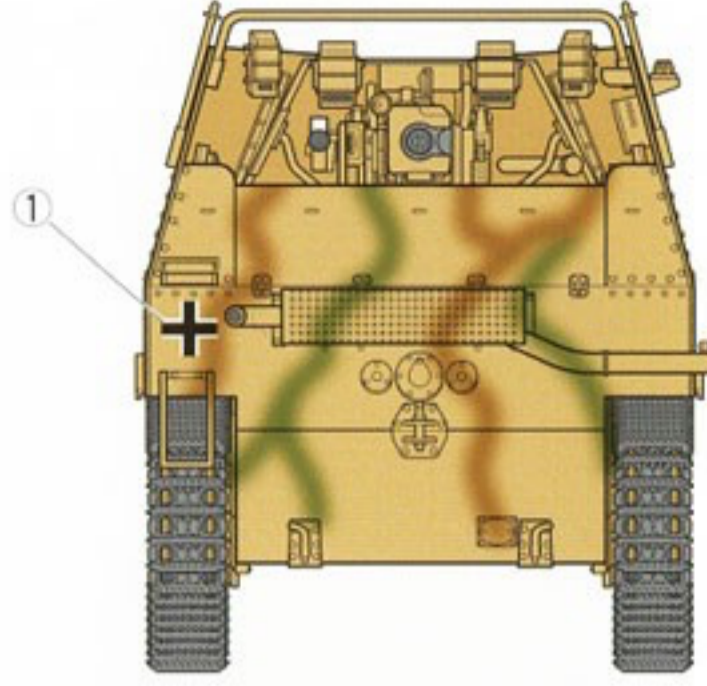
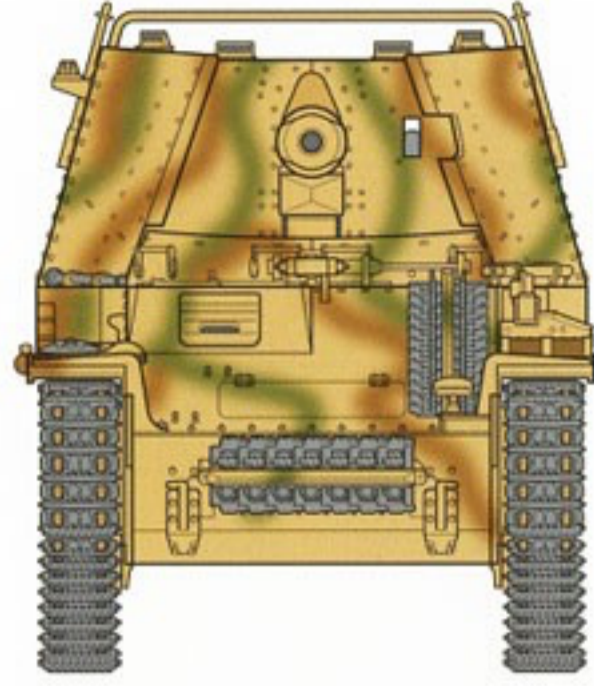
TS-1 (XF-64)  
 レッドブラウン  
 Red brown



TS-2 (XF-61)  
 ダークグリーン  
 Dark green



TS-3 (XF-60)  
 ダークイエロー  
 Dark yellow

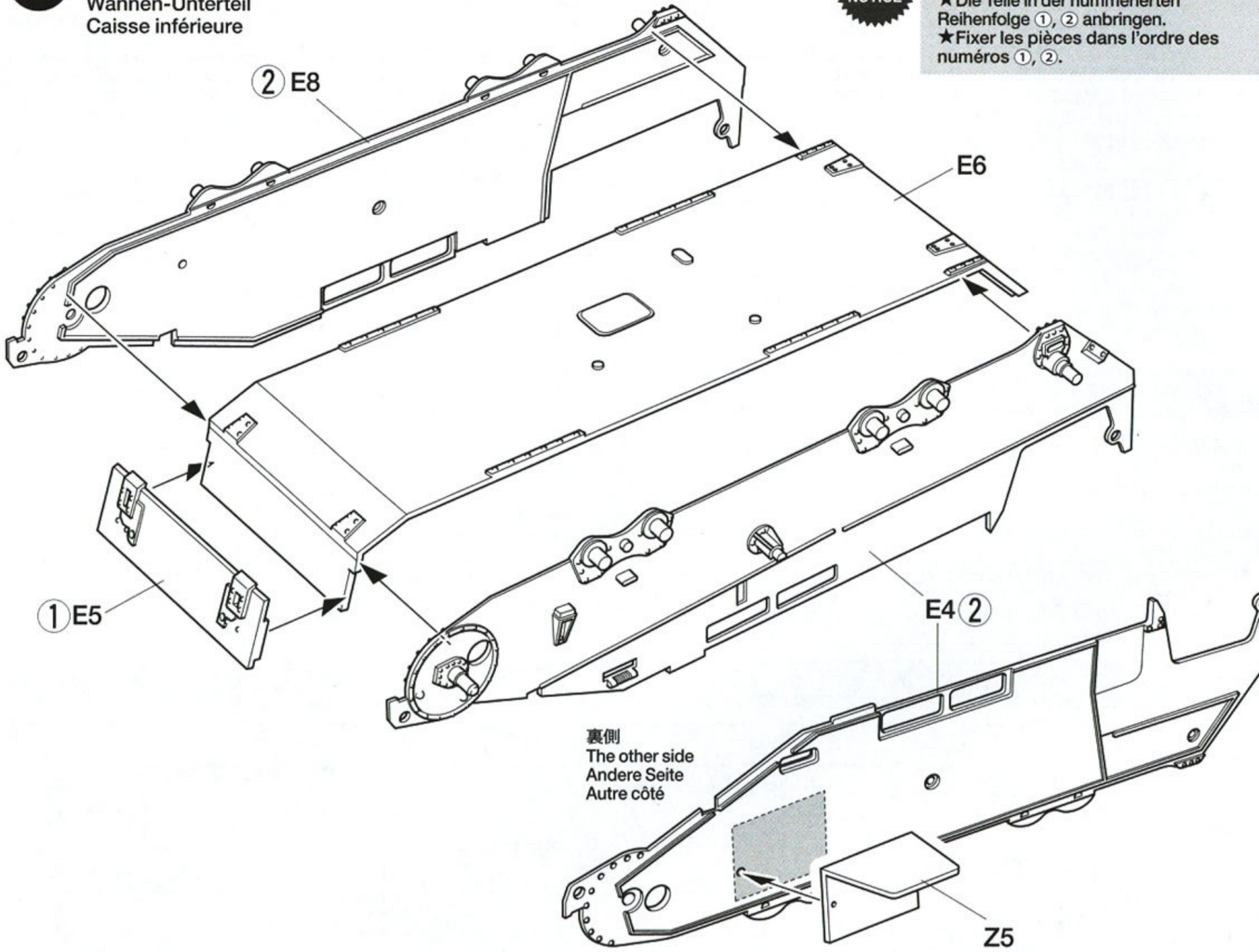


1

車体下部の組み立て  
Lower hull  
Wannen-Unterteil  
Caisse inférieure

注意!  
NOTICE

★指示の番号、①、②の順で取り付けます  
★Attach parts in numbered order ①, ②  
★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge ①, ② anbringen.  
★Fixer les pièces dans l'ordre des numéros ①, ②.

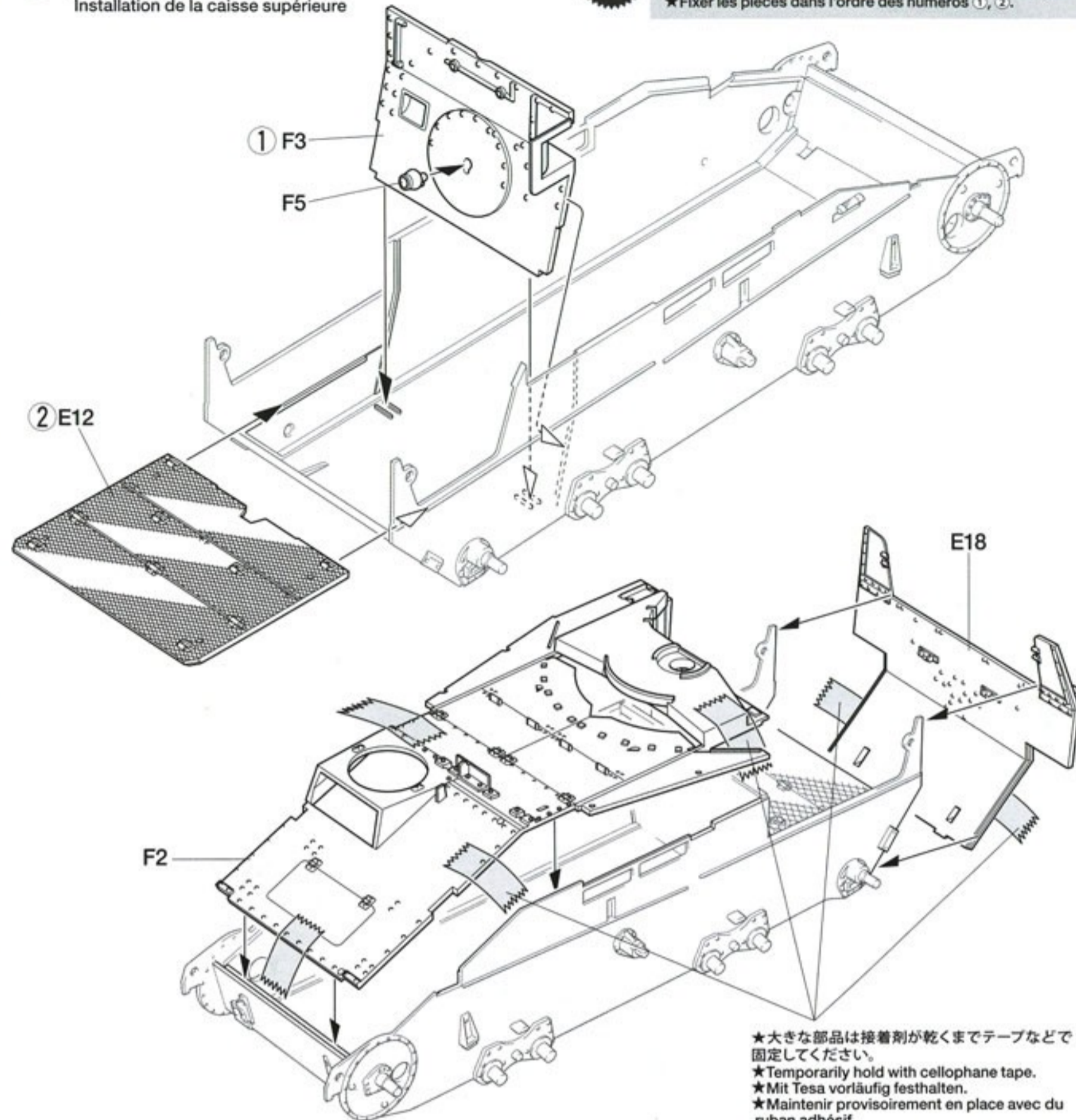


裏側  
The other side  
Andere Seite  
Autre côté

**2** 車体上部の取り付け  
Attaching upper hull  
Anbau des Wannen-Oberteils  
Installation de la caisse supérieure

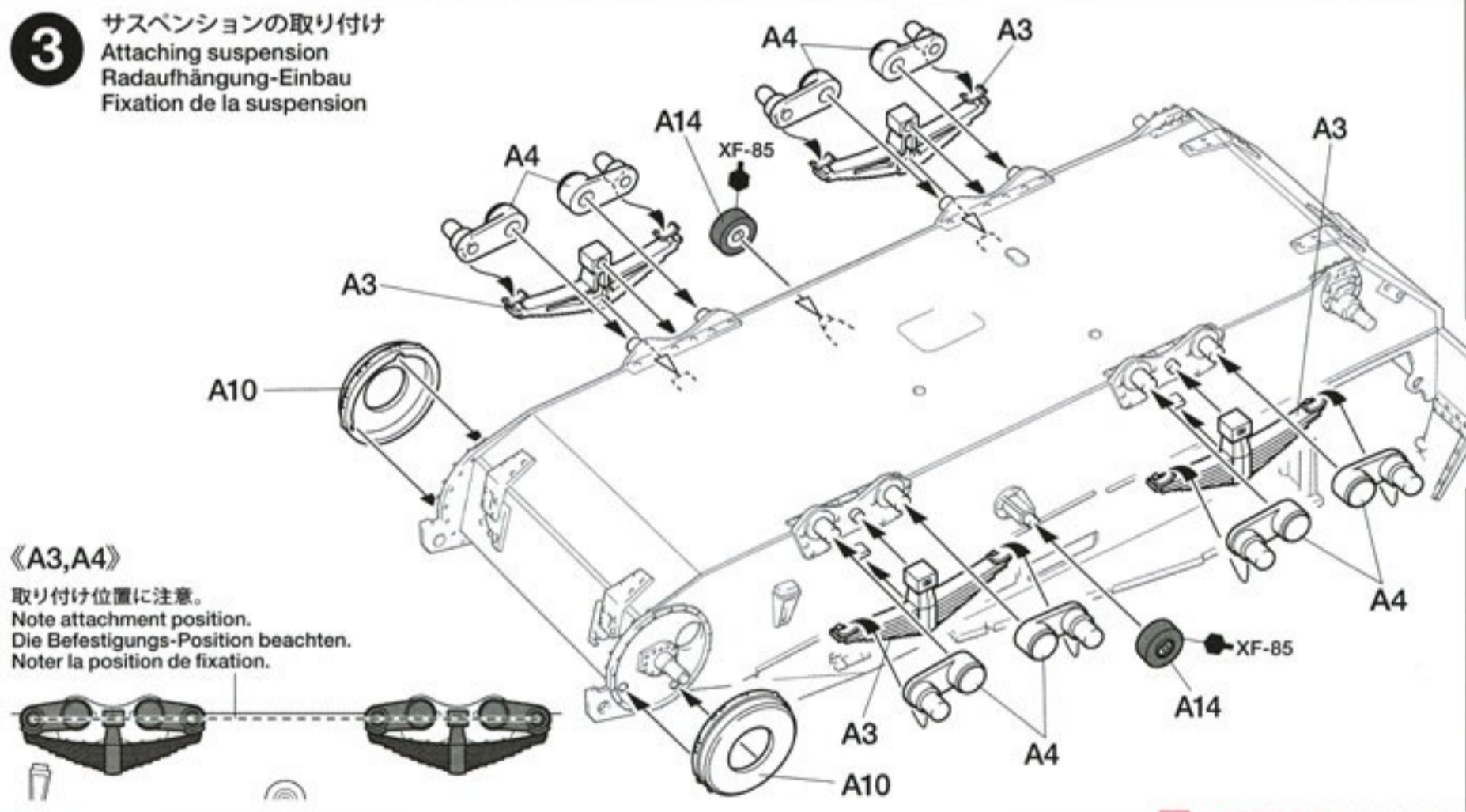
**注意!**  
NOTICE

★指示の番号、①、②の順で取り付けます。  
★Attach parts in numbered order ①, ②.  
★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge ①, ② anbringen.  
★Fixer les pièces dans l'ordre des numéros ①, ②.



★大きな部品は接着剤が乾くまでテープなどで固定してください。  
★Temporarily hold with cellophane tape.  
★Mit Tesa vorläufig festhalten.  
★Maintenir provisoirement en place avec du ruban adhésif.

**3** サスペンションの取り付け  
Attaching suspension  
Radaufhängung-Einbau  
Fixation de la suspension

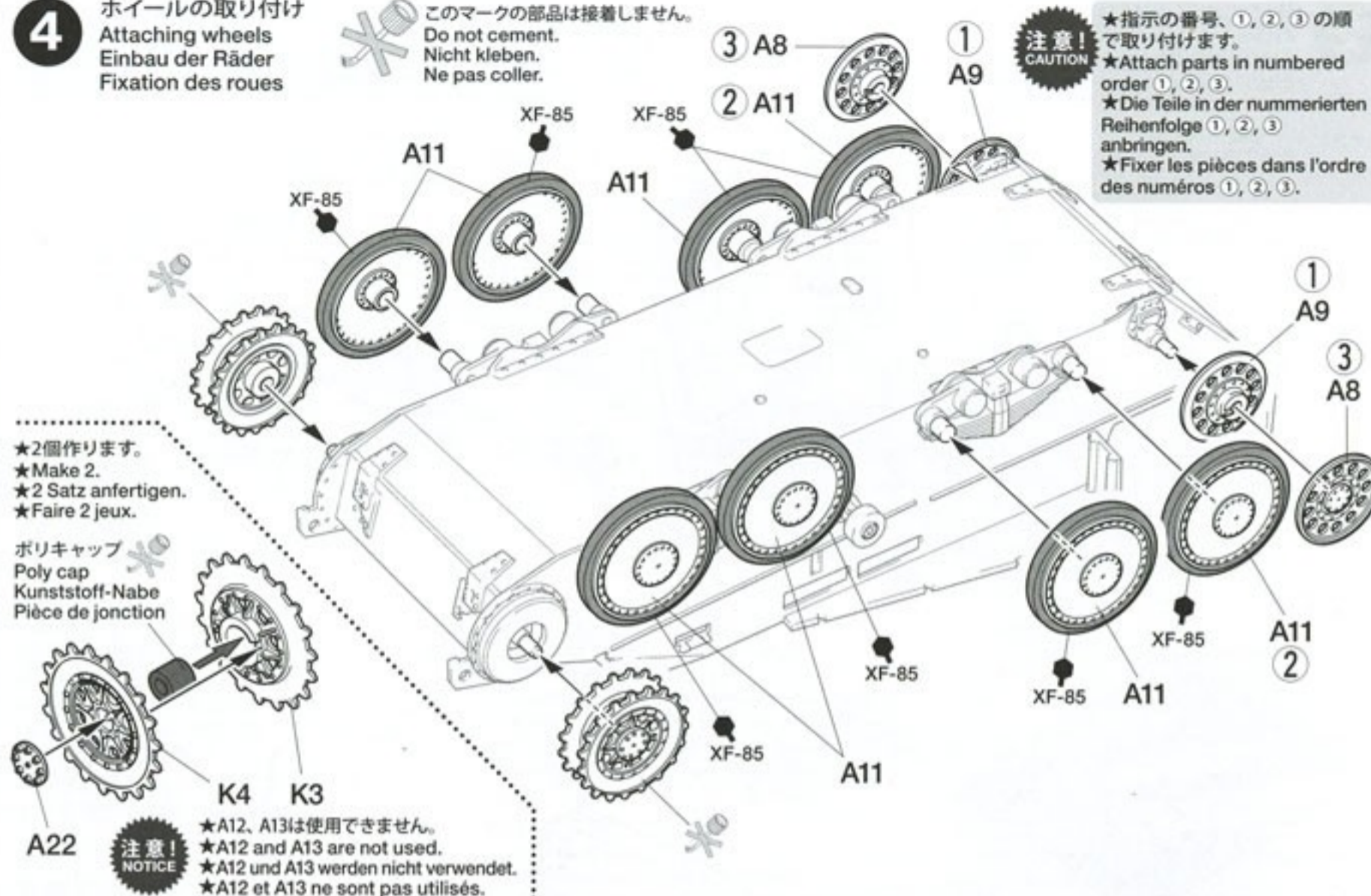


《A3,A4》  
取り付け位置に注意。  
Note attachment position.  
Die Befestigungs-Position beachten.  
Noter la position de fixation.

**4** ホイールの取り付け  
Attaching wheels  
Einbau der Räder  
Fixation des roues

このマークの部品は接着しません。  
Do not cement.  
Nicht kleben.  
Ne pas coller.

**注意!**  
CAUTION  
★指示の番号、①、②、③の順で取り付けます。  
★Attach parts in numbered order ①, ②, ③.  
★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge ①, ②, ③ anbringen.  
★Fixer les pièces dans l'ordre des numéros ①, ②, ③.



★2個作ります。  
★Make 2.  
★2 Satz anfertigen.  
★Faire 2 jeux.

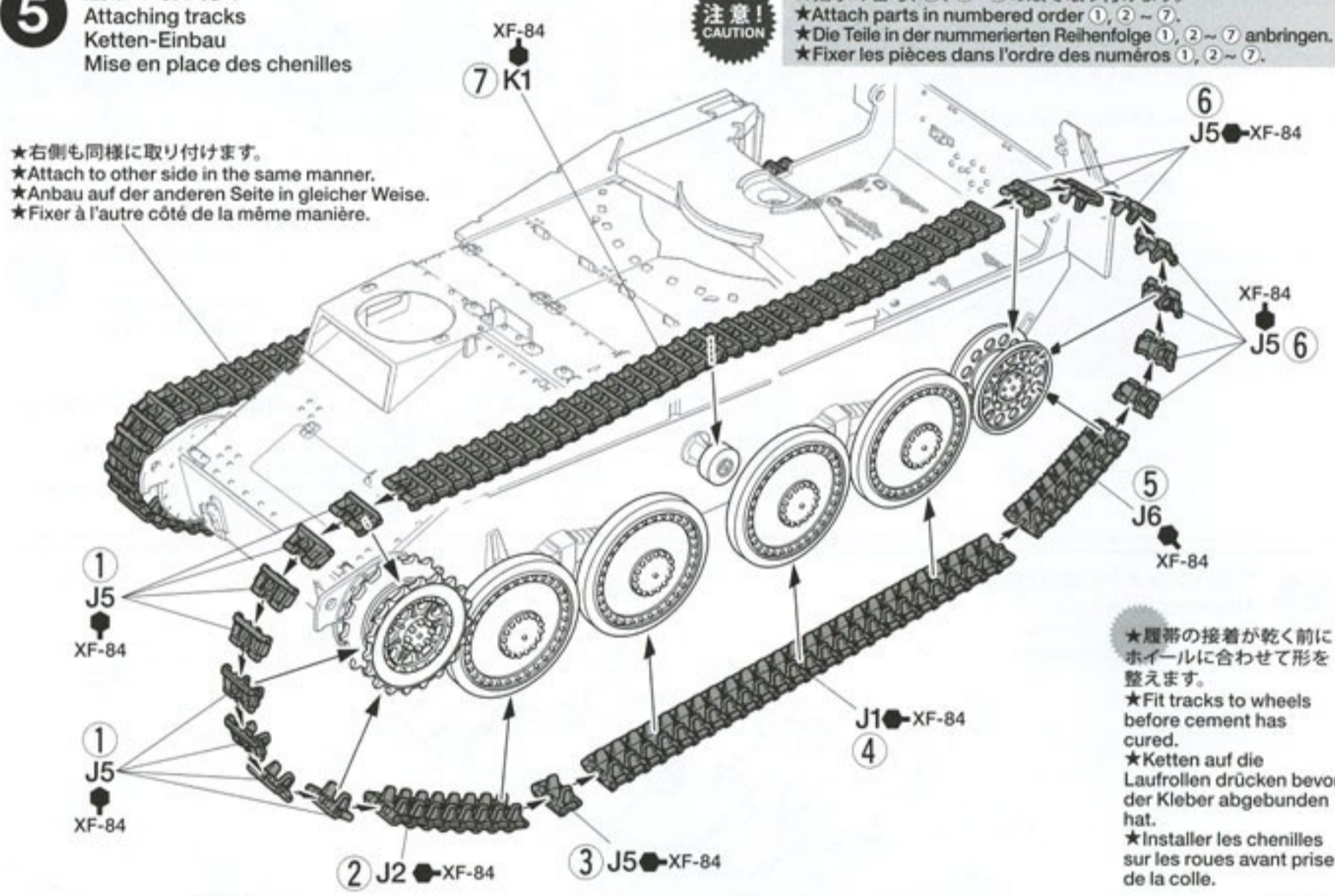
ポリキャップ  
Poly cap  
Kunststoff-Nabe  
Pièce de jonction

**注意!**  
NOTICE  
★A12, A13は使用できません。  
★A12 and A13 are not used.  
★A12 und A13 werden nicht verwendet.  
★A12 et A13 ne sont pas utilisés.

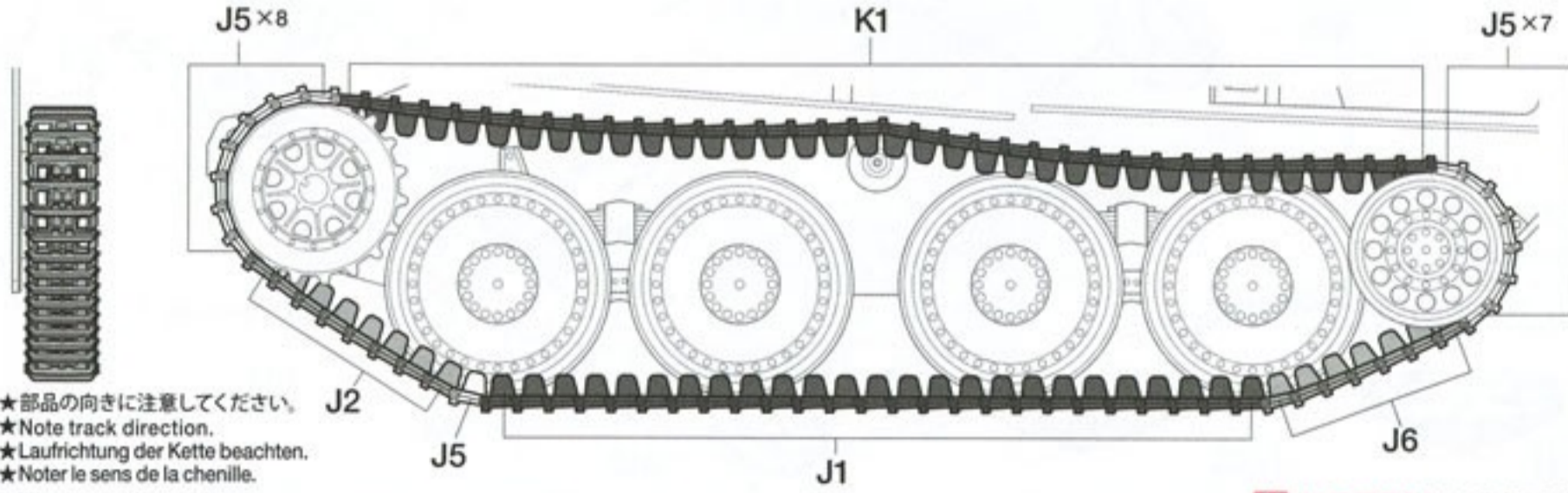
**5** 履帯の取り付け  
Attaching tracks  
Ketten-Einbau  
Mise en place des chenilles

**注意!**  
CAUTION  
★指示の番号、①、②～⑦の順で取り付けます。  
★Attach parts in numbered order ①, ②～⑦.  
★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge ①, ②～⑦ anbringen.  
★Fixer les pièces dans l'ordre des numéros ①, ②～⑦.

★右側も同様に取り付けます。  
★Attach to other side in the same manner.  
★Anbau auf der anderen Seite in gleicher Weise.  
★Fixer à l'autre côté de la même manière.

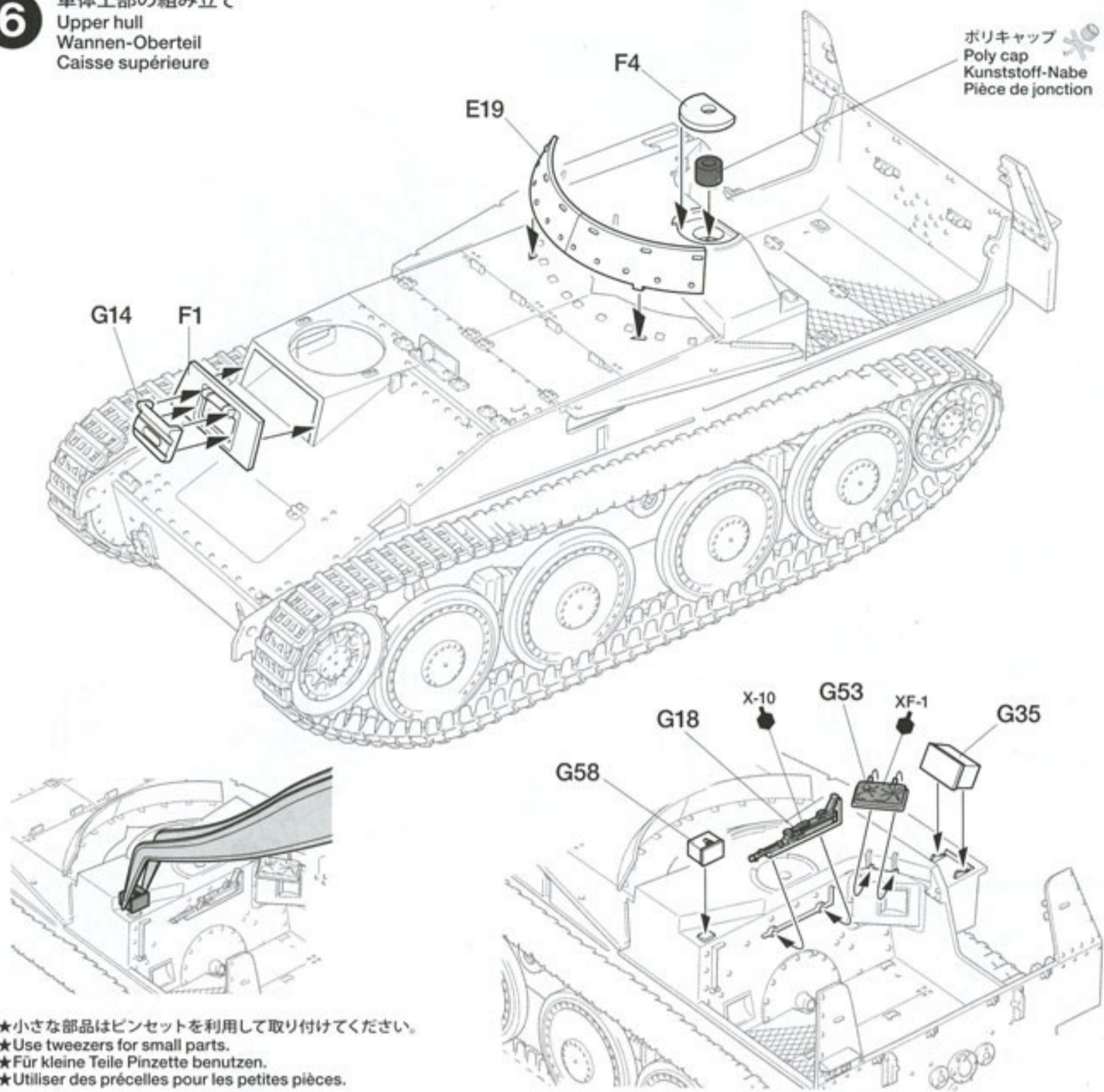


★履帯の接着が乾く前にホイールに合わせて形を整えます。  
★Fit tracks to wheels before cement has cured.  
★Ketten auf die Laufrollen drücken bevor der Kleber abgebanden hat.  
★Installer les chenilles sur les roues avant prise de la colle.



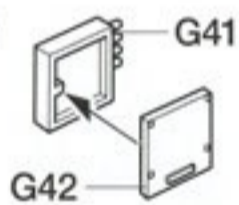
★部品の向きに注意してください。  
★Note track direction.  
★Laufrichtung der Kette beachten.  
★Noter le sens de la chenille.

**6** 車体上部の組み立て  
Upper hull  
Wannen-Oberteil  
Caisse supérieure

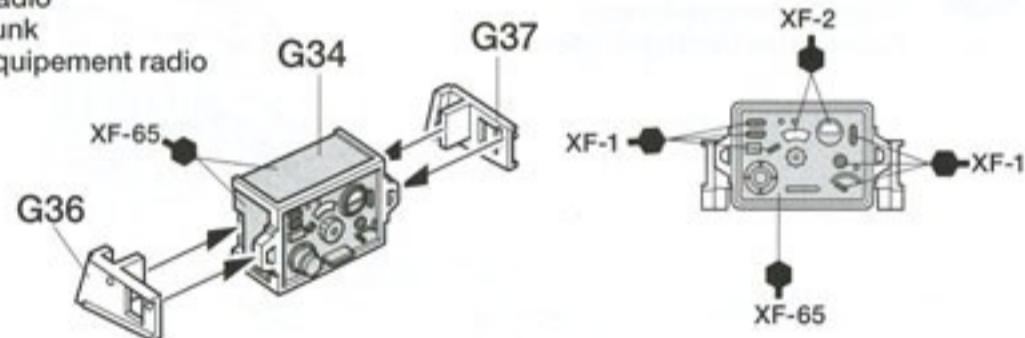


**7** 戦闘室側面装甲板部品の組み立て  
Side armor plate parts  
Teile der Seitenpanzerung  
Pièces des blindages latéraux

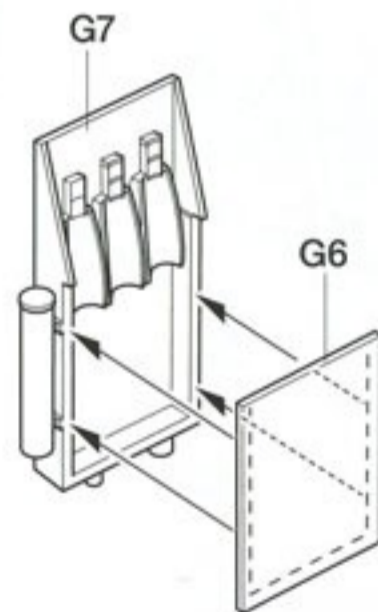
《車内通話装置》A  
Intercom  
Sprechanlage  
Interphone



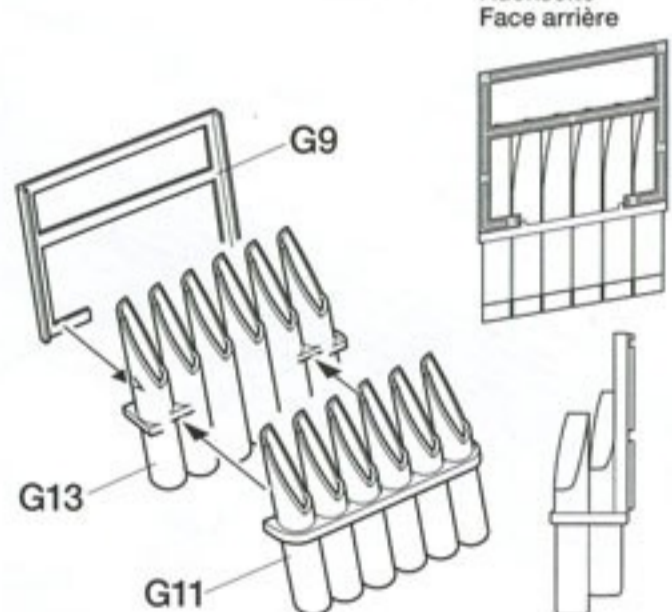
《無線機》B  
Radio  
Funk  
Equipement radio



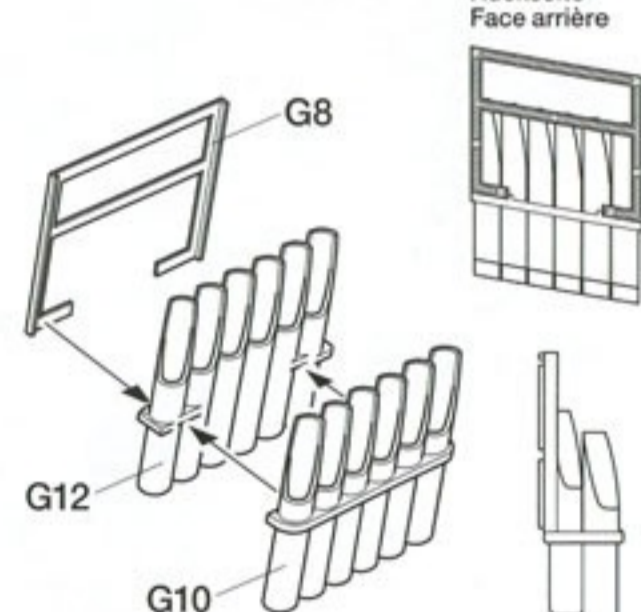
《砲弾ラック (3発用)》C  
3-shell rack  
3-Schuss Halterung  
Rack à 3 obus



《砲弾ラック右》D  
Shell rack (right)  
Munitions-Ablage (rechts)  
Rack à munitions (droite)



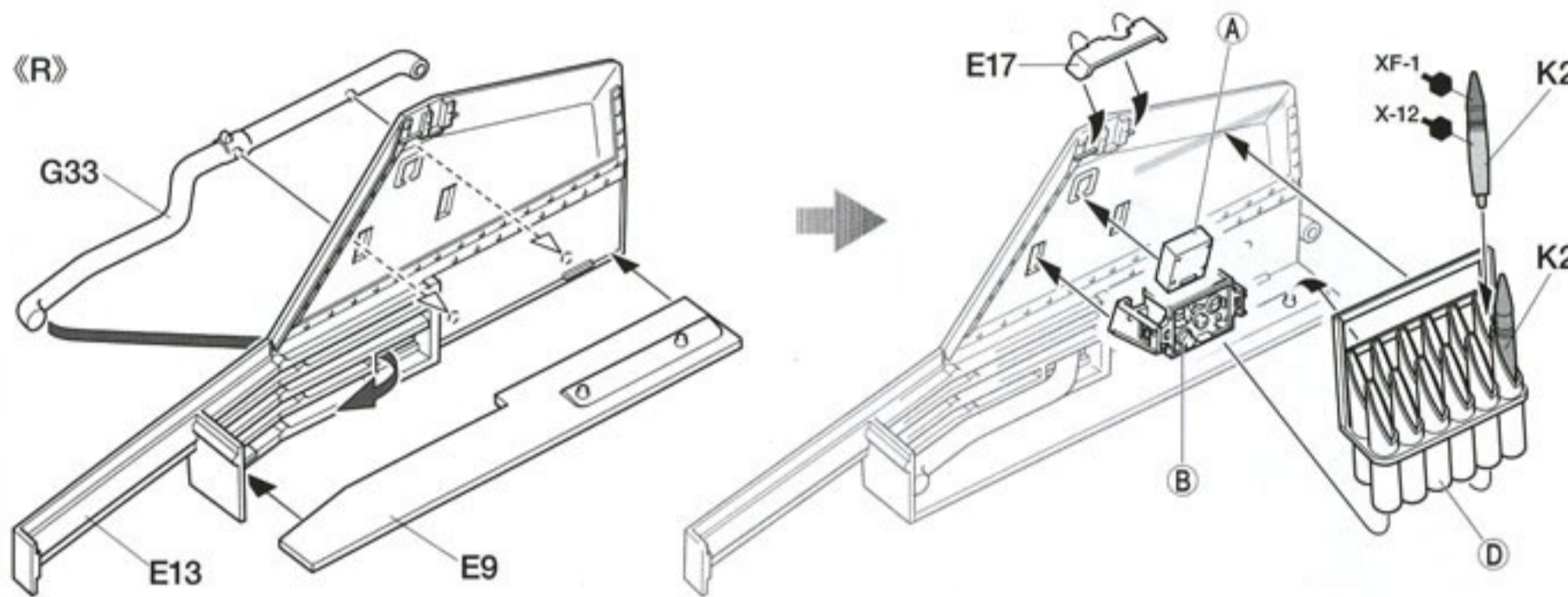
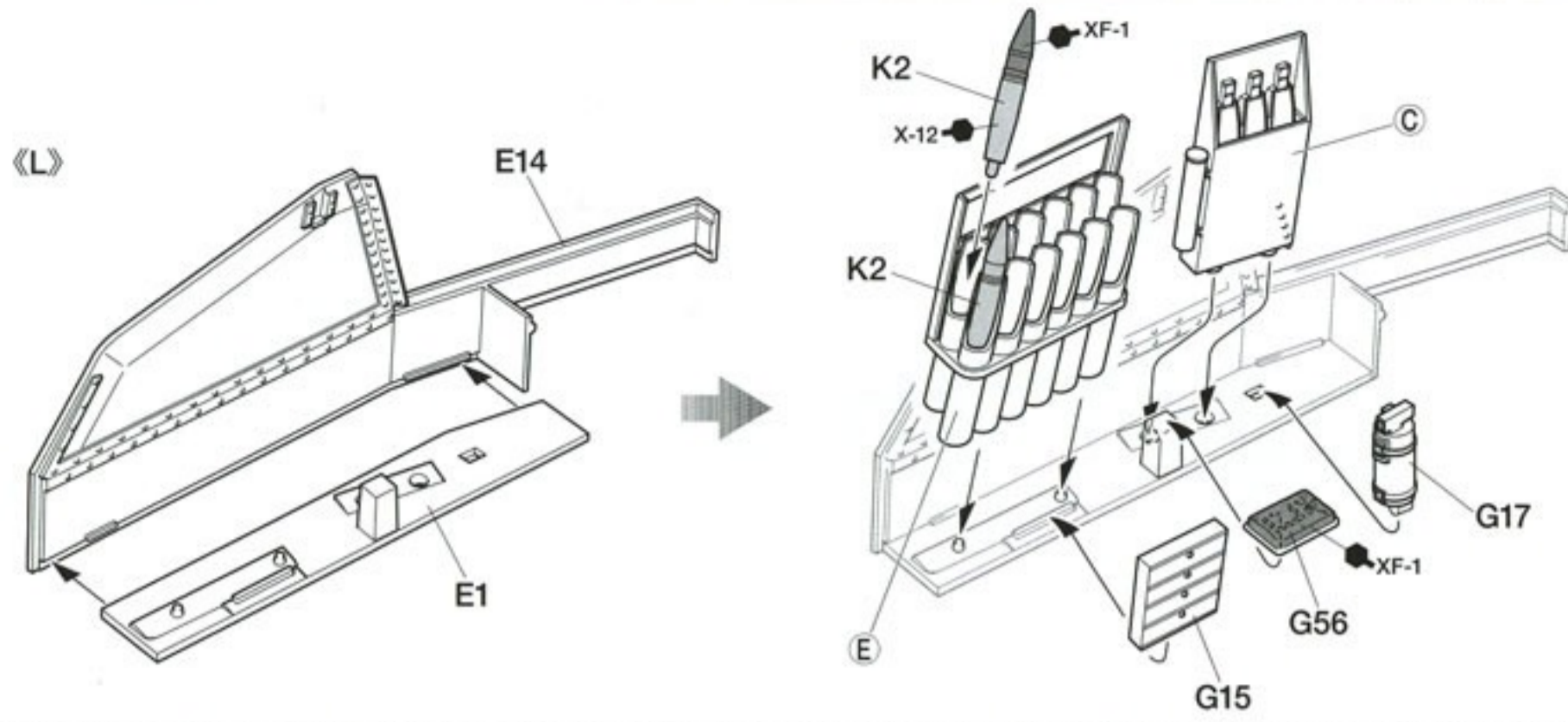
《砲弾ラック左》E  
Shell rack (left)  
Munitions-Ablage (links)  
Rack à munitions (gauche)



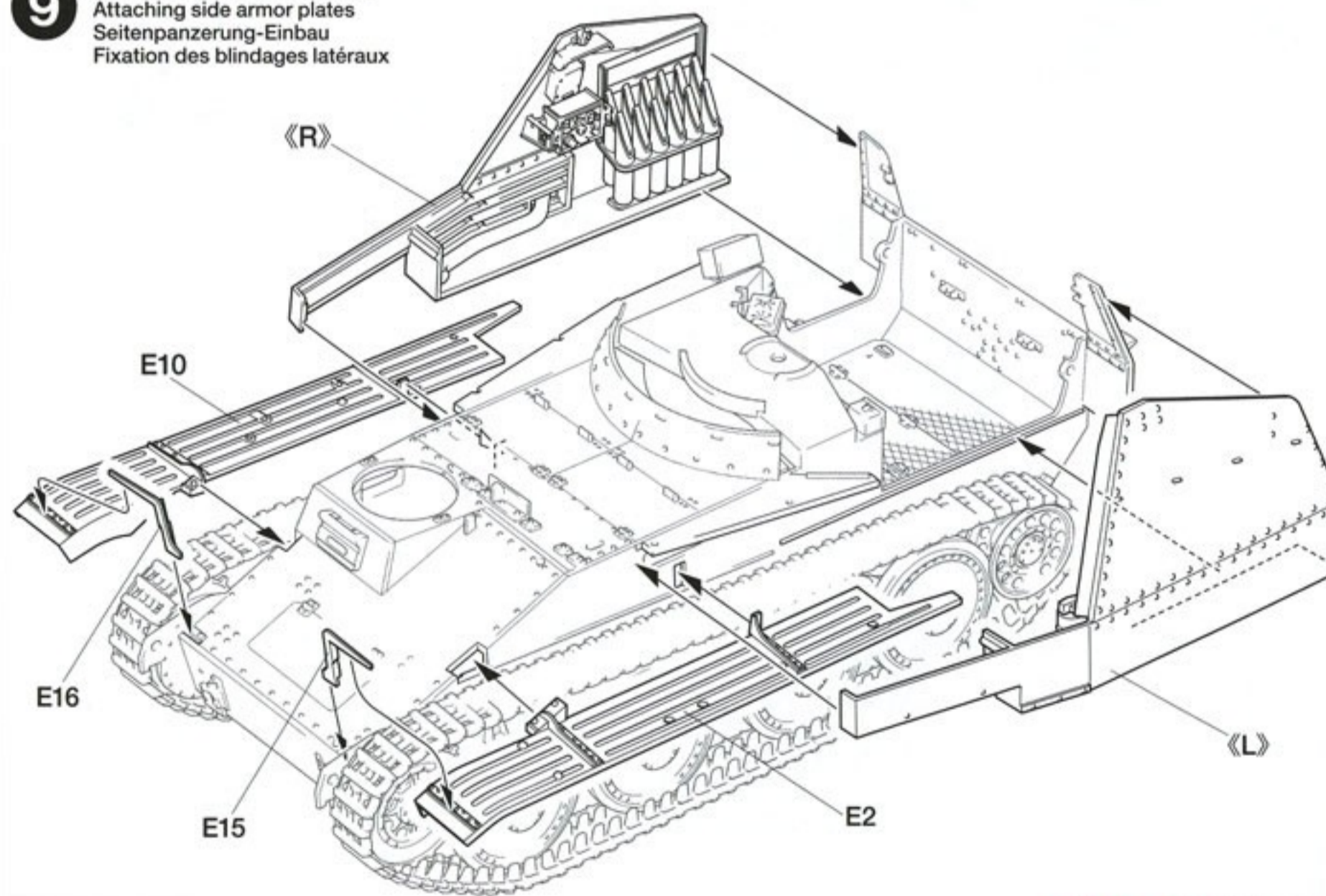
**8** 戦闘室側面装甲板の組み立て  
Side armor plates  
Seitenpanzerung  
Blindages latéraux

**注意!**  
NOTICE

★K2は自由にお使いください。砲弾ラック（3発用）には取り付けできません。  
★Attach K2 as you like. K2 cannot be attached in 3-shell rack.  
★K2 nach Belieben anbringen. K2 kann nicht in der 3-Schusshalterung verwendet werden.  
★Fixer K2 comme souhaité. K2 ne peut pas être fixé dans le rack à 3 obus.



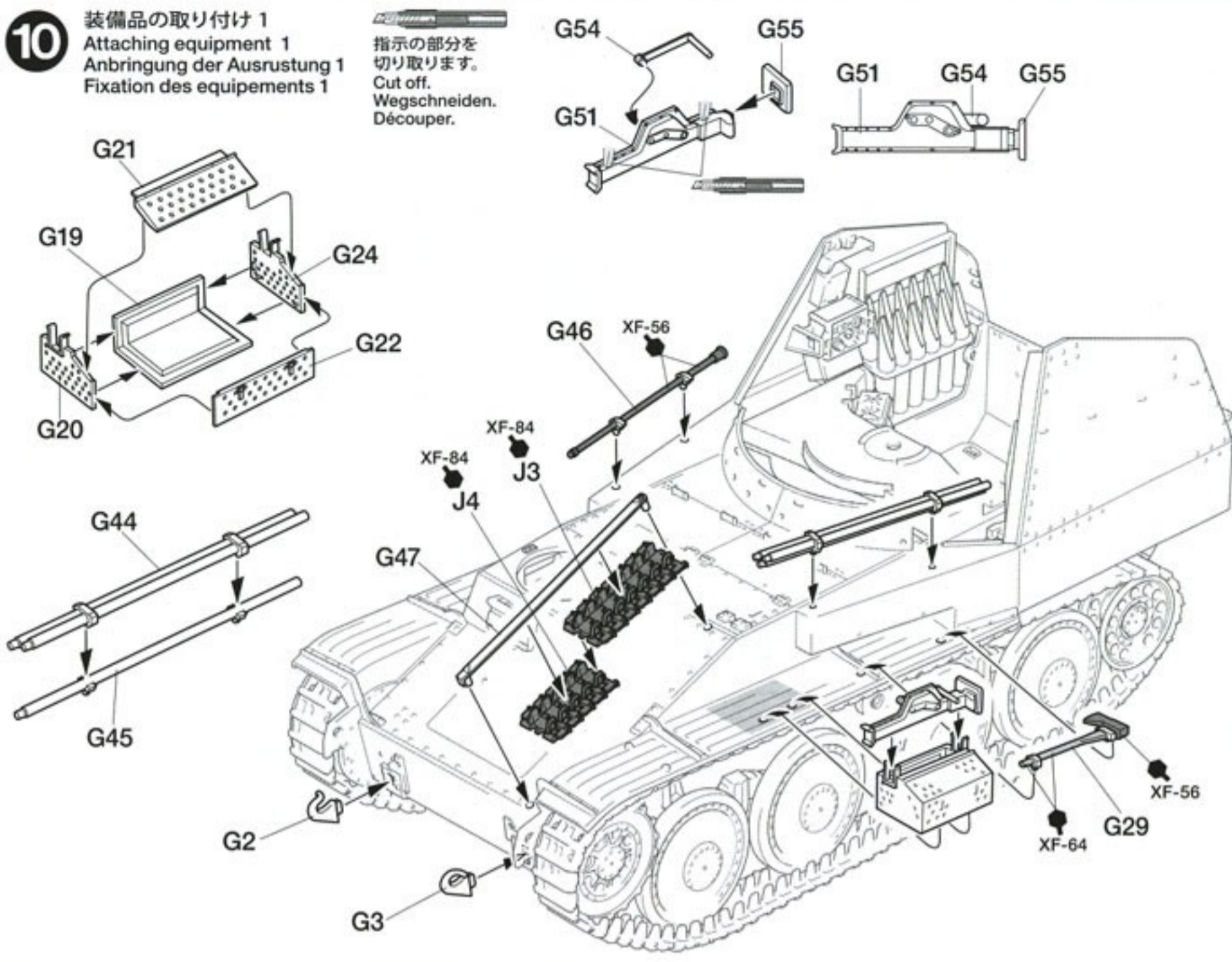
**9** 戦闘室側面装甲板の取り付け  
Attaching side armor plates  
Seitenpanzerung-Einbau  
Fixation des blindages latéraux



10

装備品の取り付け 1  
Attaching equipment 1  
Anbringung der Ausrüstung 1  
Fixation des équipements 1

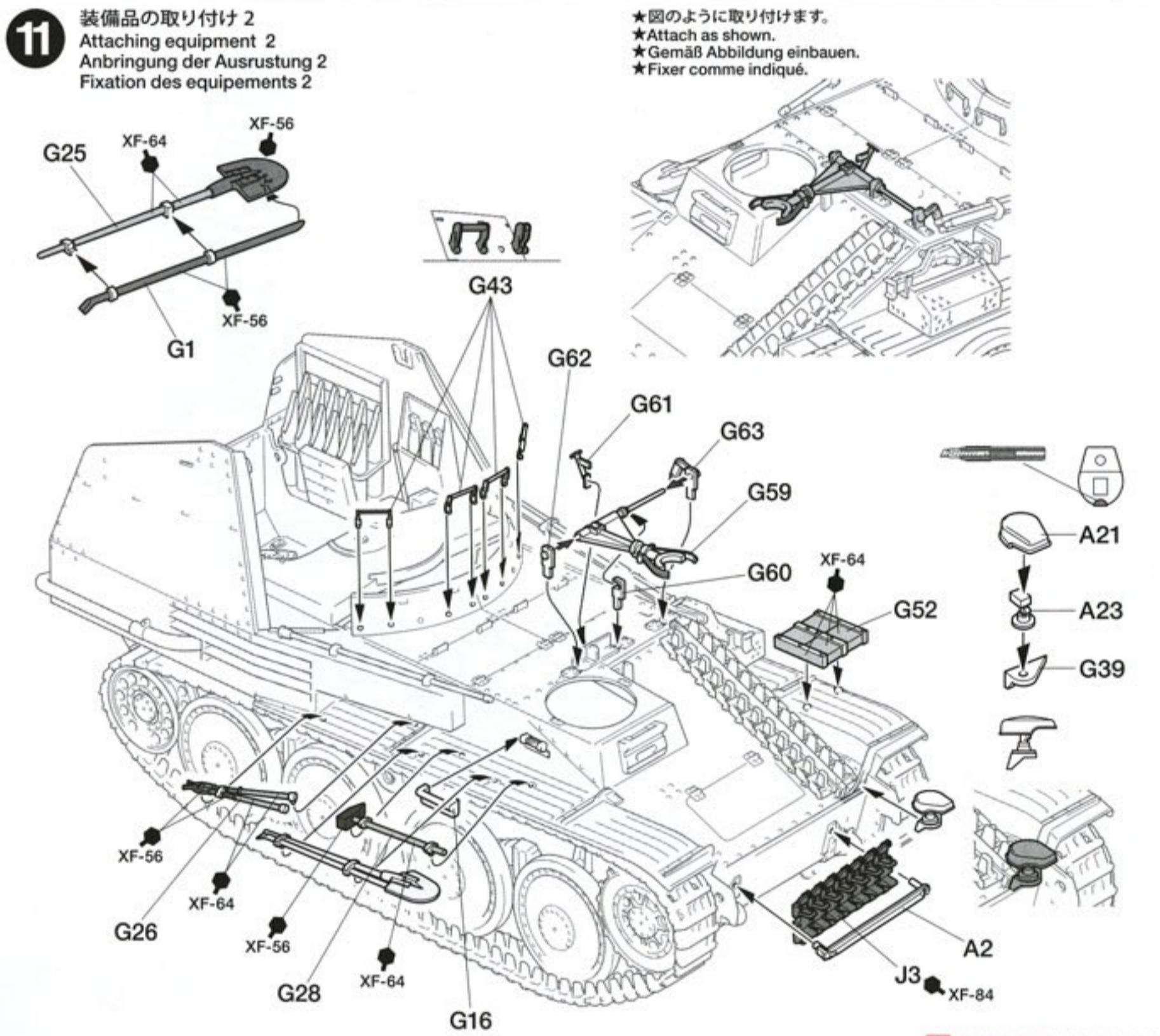
指示の部分を  
切り取ります。  
Cut off.  
Wegschneiden.  
Découper.



11

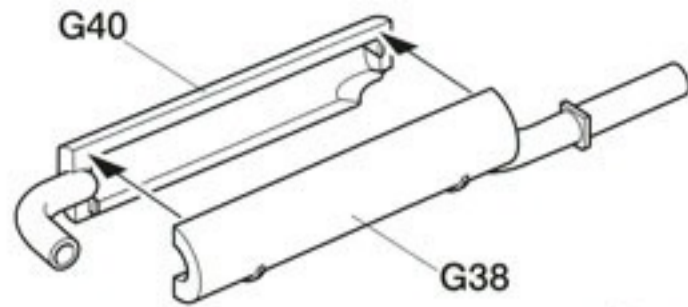
装備品の取り付け 2  
Attaching equipment 2  
Anbringung der Ausrüstung 2  
Fixation des équipements 2

★図のように取り付けます。  
★Attach as shown.  
★Gemäß Abbildung einbauen.  
★Fixer comme indiqué.

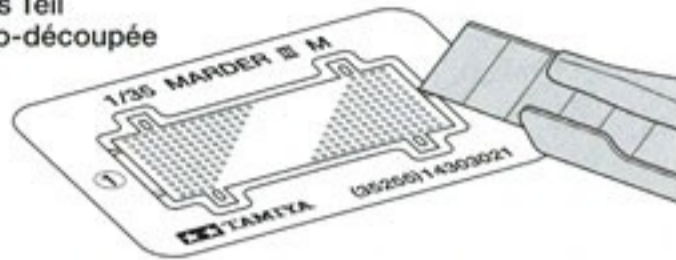




**12** マフラーの組み立て  
Exhaust  
Auspuff  
Echappement

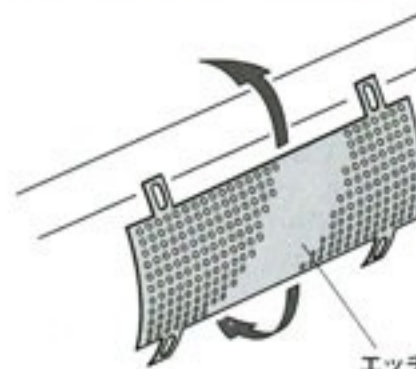


《エッチングパーツ》  
Photo-etched part  
Fotogeätztes Teil  
Pièces photo-découpée

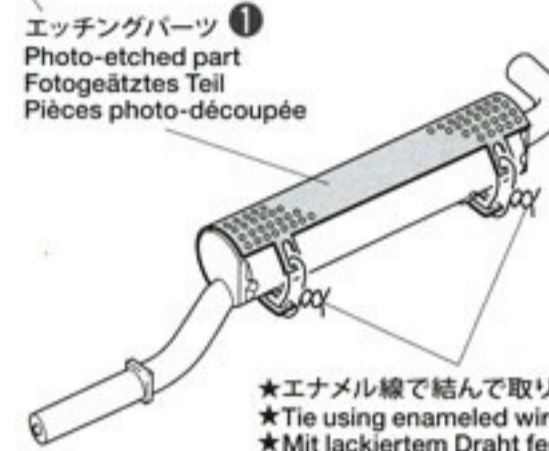


★エッチングパーツはたいへん薄く、手などを切りやすいので取り扱いには十分注意してください。  
★Be careful not to hurt yourself when handling photo-etched parts.  
★Wegen Verletzungsgefahr mit fotogeätzten Teilen vorsichtig umgehen.  
★Manipuler les pièces photo-découpées avec précaution pour éviter les blessures.

金属パーツはタミヤメタルプライマー (別売) を吹き付けてから塗装します。  
Apply metal primer (separately available) before painting metal parts.  
Zum Lackieren vorher (getrennt erhältliche) Metallgrundierung auftragen.  
Appliquer de l'apprêt pour métal (disponible séparément) avant peinture.

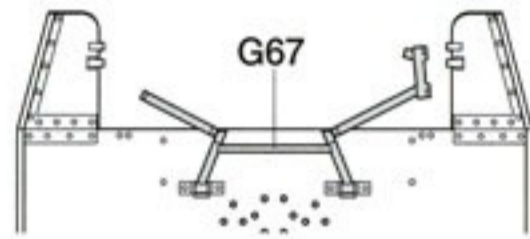


★F部品のランナーを利用して曲げ加工をしてからマフラーに取り付けます。  
★Bend photo-etched part around excess sprue of F parts and attach to exhaust.  
★Das fotogeätzte Teil um Spritzabfall der F-Teile biegen und am Auspuff befestigen.  
★Plier la pièce photo-découpée autour d'une tige de la grappe F et la fixer à l'échappement.

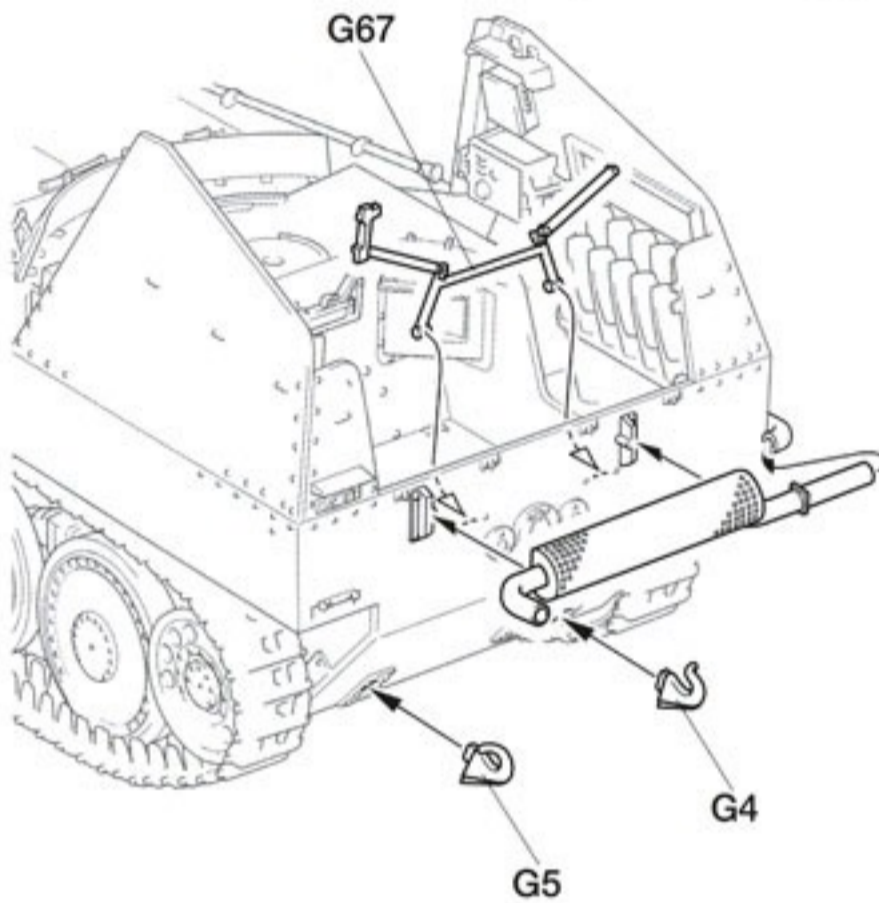


★エナメル線で結んで取り付けます。  
★Tie using enameled wire.  
★Mit lackiertem Draht festbinden.  
★Nouer avec du fil vernissé.

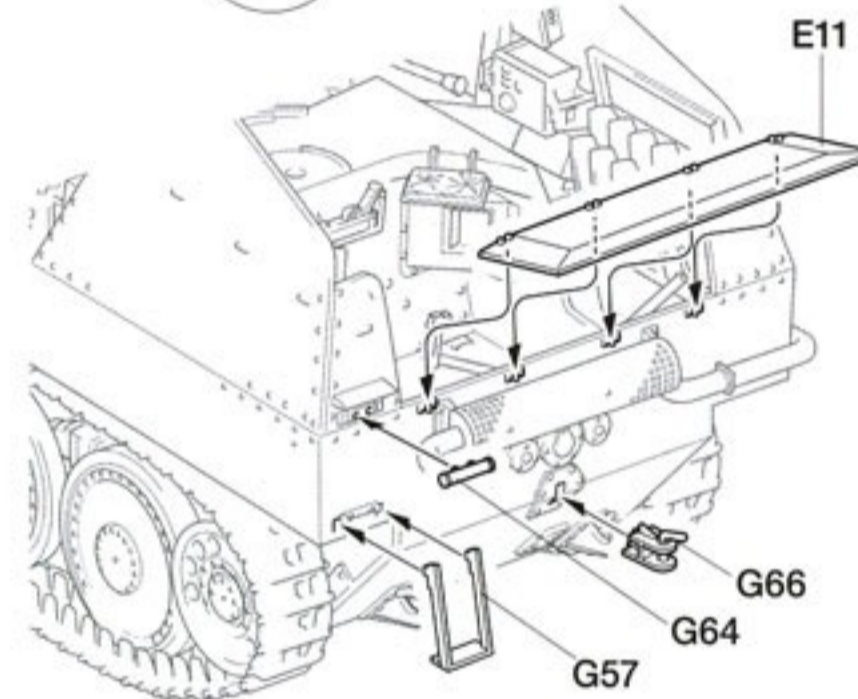
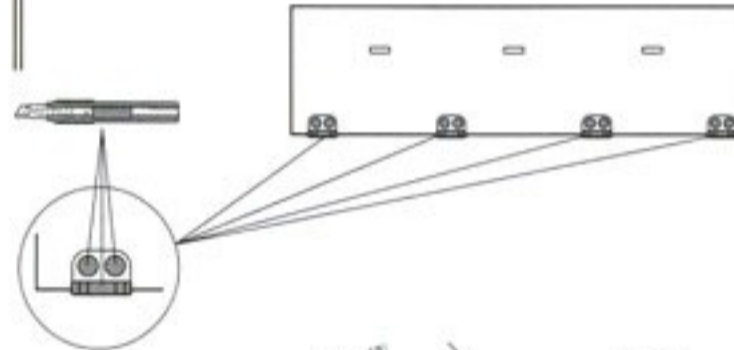
**13** マフラーの取り付け  
Attaching exhaust  
Einbau der Auspuffe  
Fixation des échappements



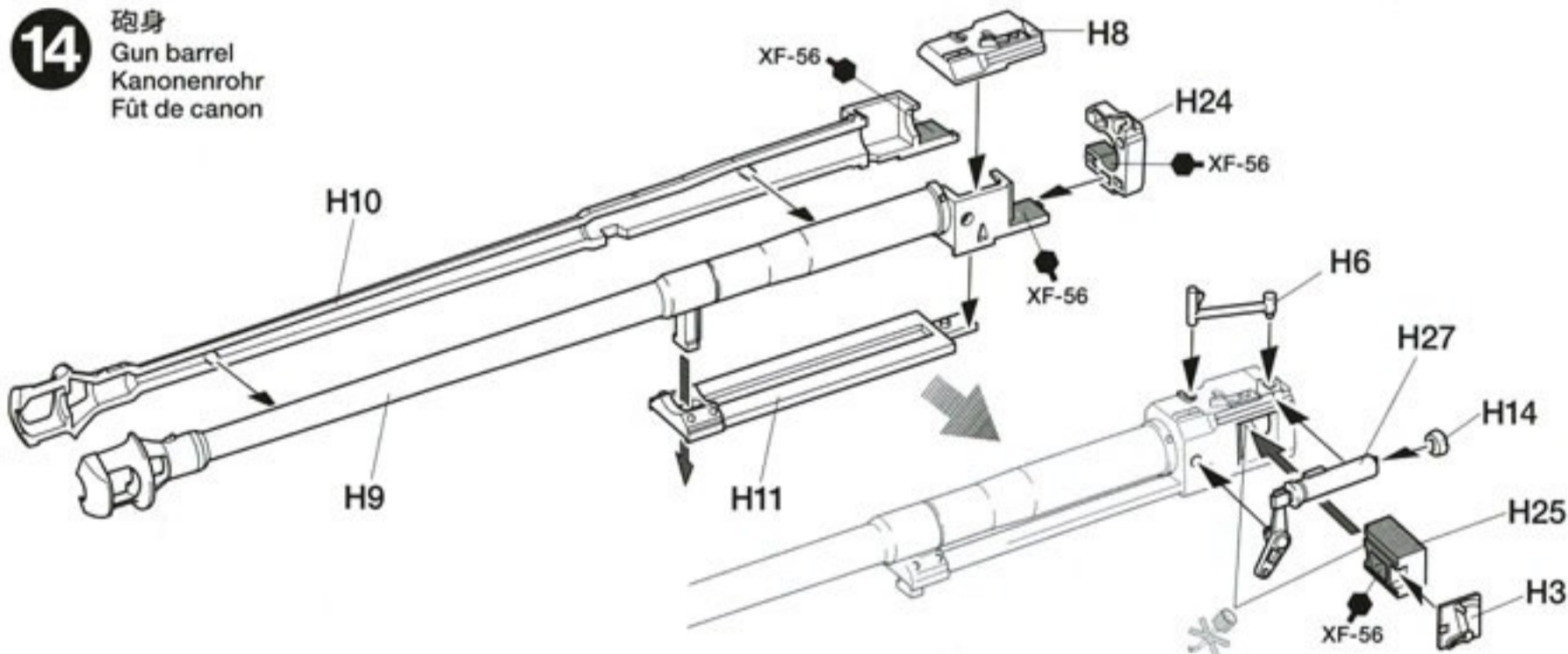
★図のように取り付けます。  
★Attach as shown.  
★Gemäß Abbildung anbringen.  
★Installer comme indiqué.



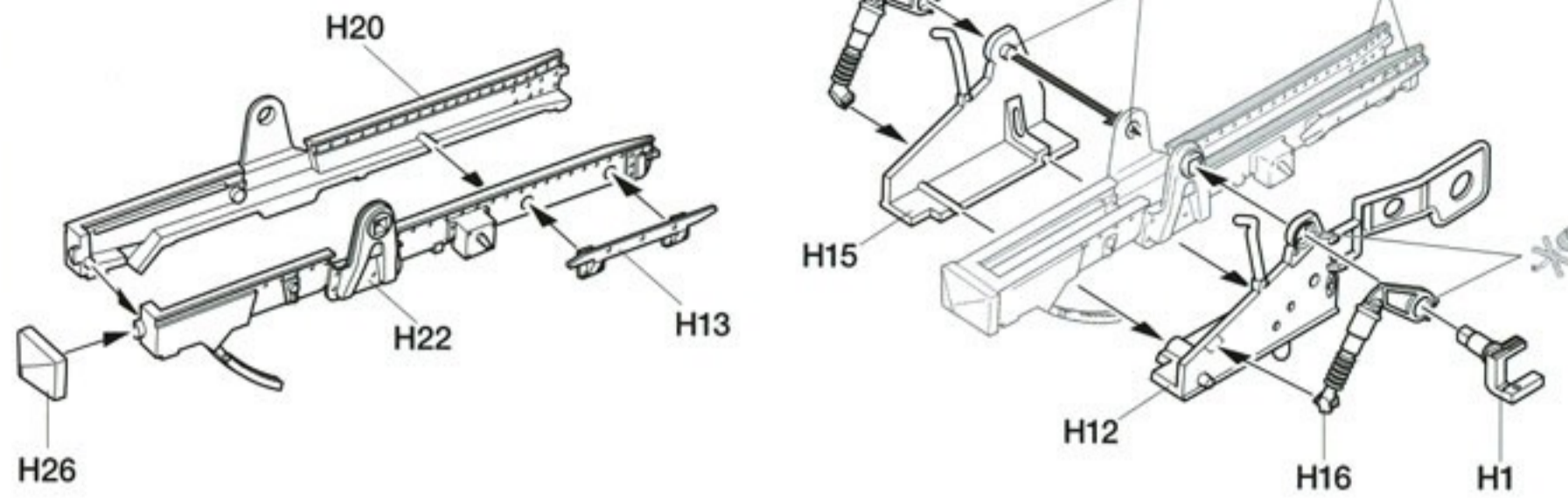
《E11》



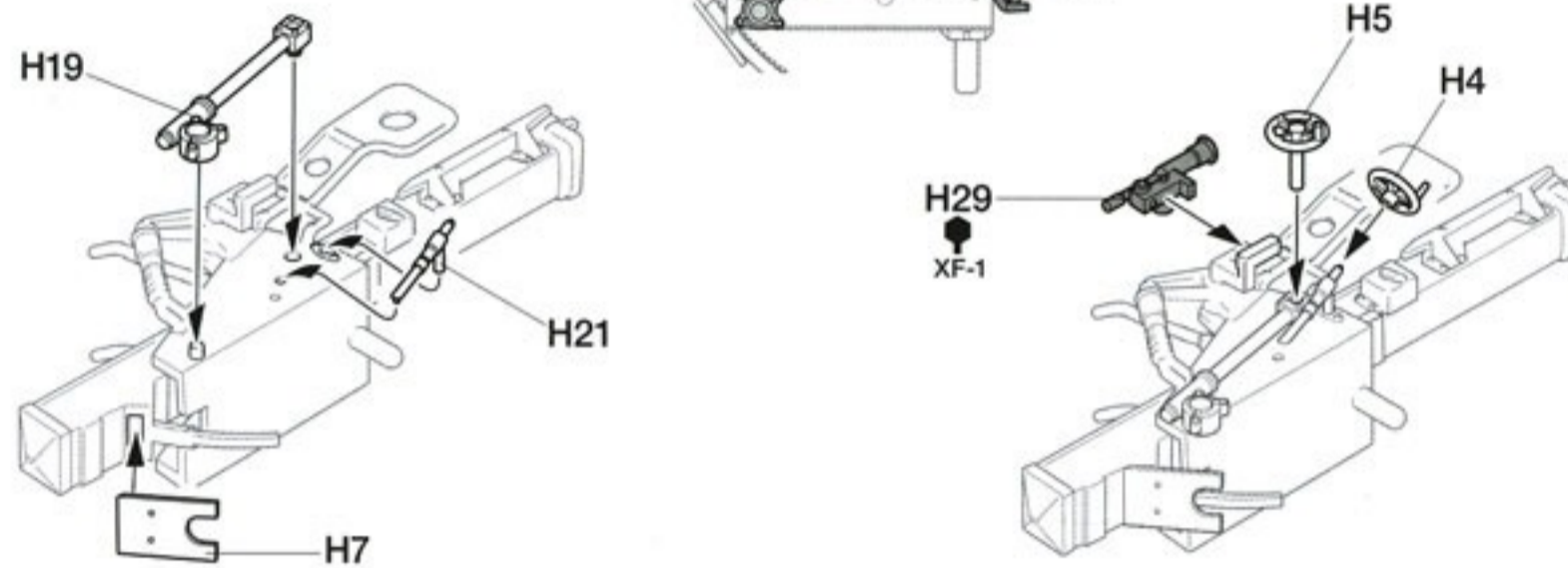
**14** 砲身  
Gun barrel  
Kanonenrohr  
Fût de canon



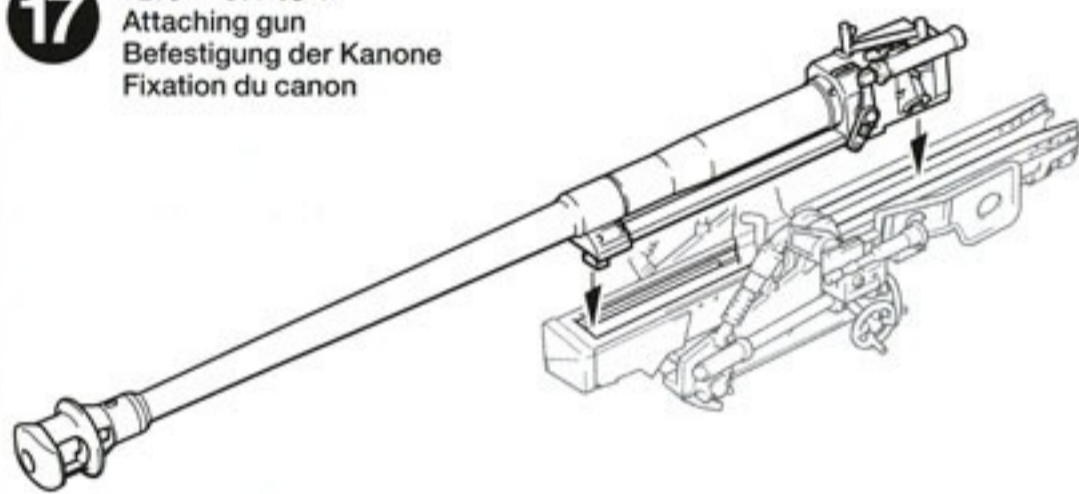
**15** 砲架の組み立て1  
Carriage 1  
Schlitten 1  
Affût 1



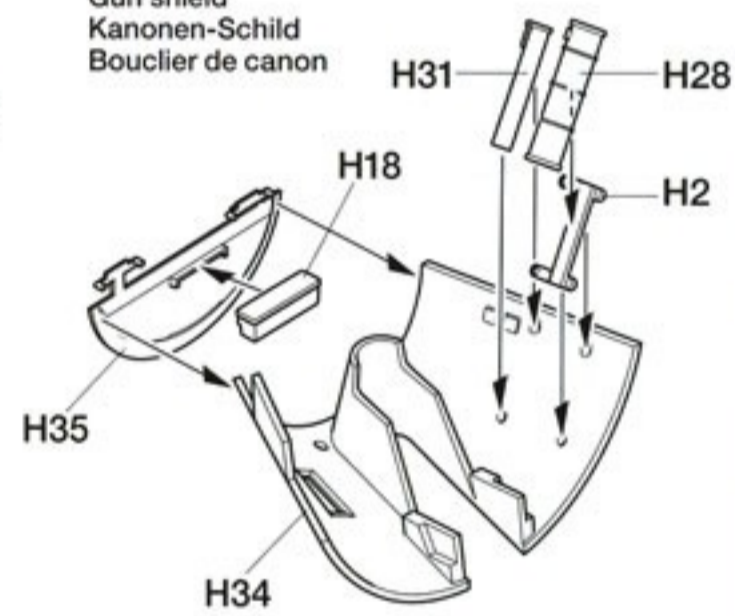
**16** 砲架の組み立て2  
Carriage 2  
Schlitten 2  
Affût 2



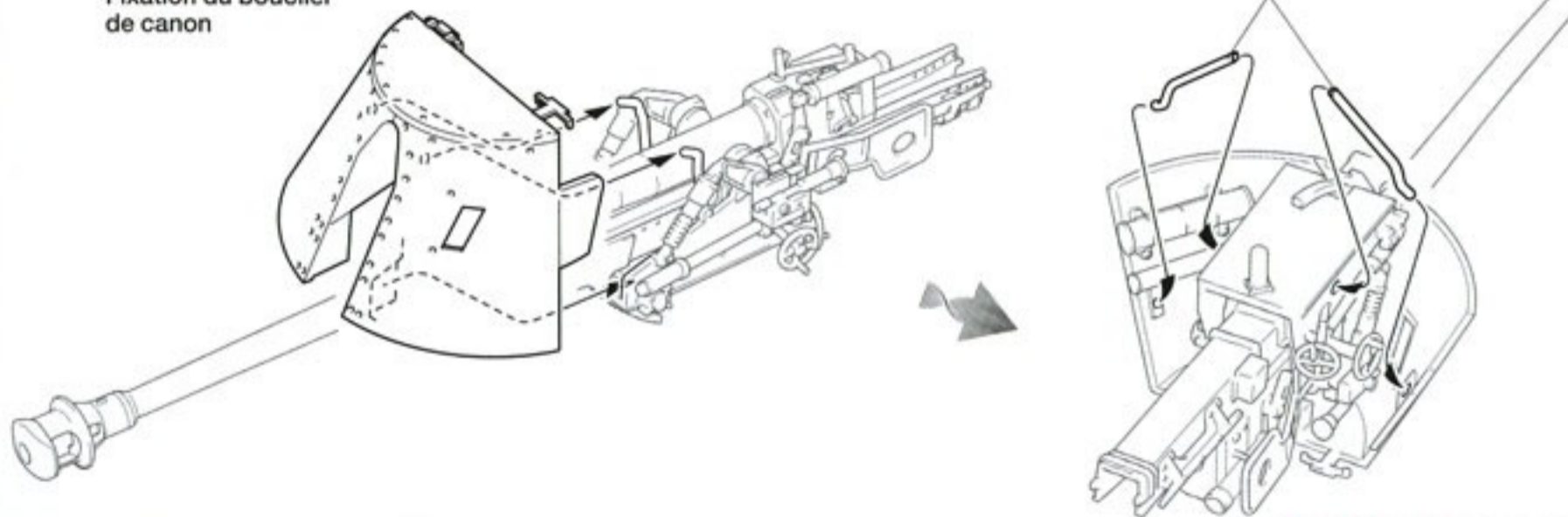
**17** 砲身の取り付け  
Attaching gun  
Befestigung der Kanone  
Fixation du canon



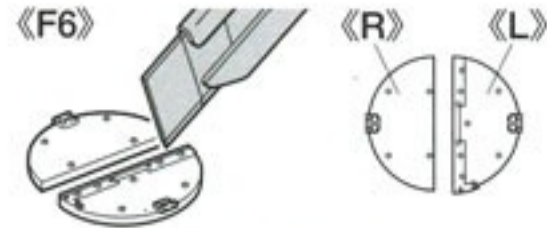
《防盾》  
Gun shield  
Kanonen-Schild  
Bouclier de canon



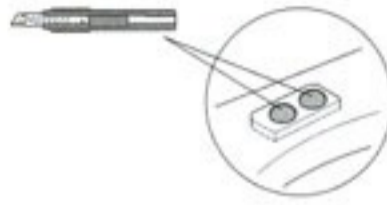
**18** 防盾の取り付け  
Attaching gun shield  
Kanonen-Schild-Einbau  
Fixation du bouclier  
de canon



**19** 7.5cm Pak40/3対戦車砲の取り付け  
 Attaching 7.5cm Pak 40/3 anti-tank gun  
 Anbau der 7.5cm Pak 40/3 Panzerabwehrkanone  
 Installation du canon anti-char 7.5cm Pak 40/3

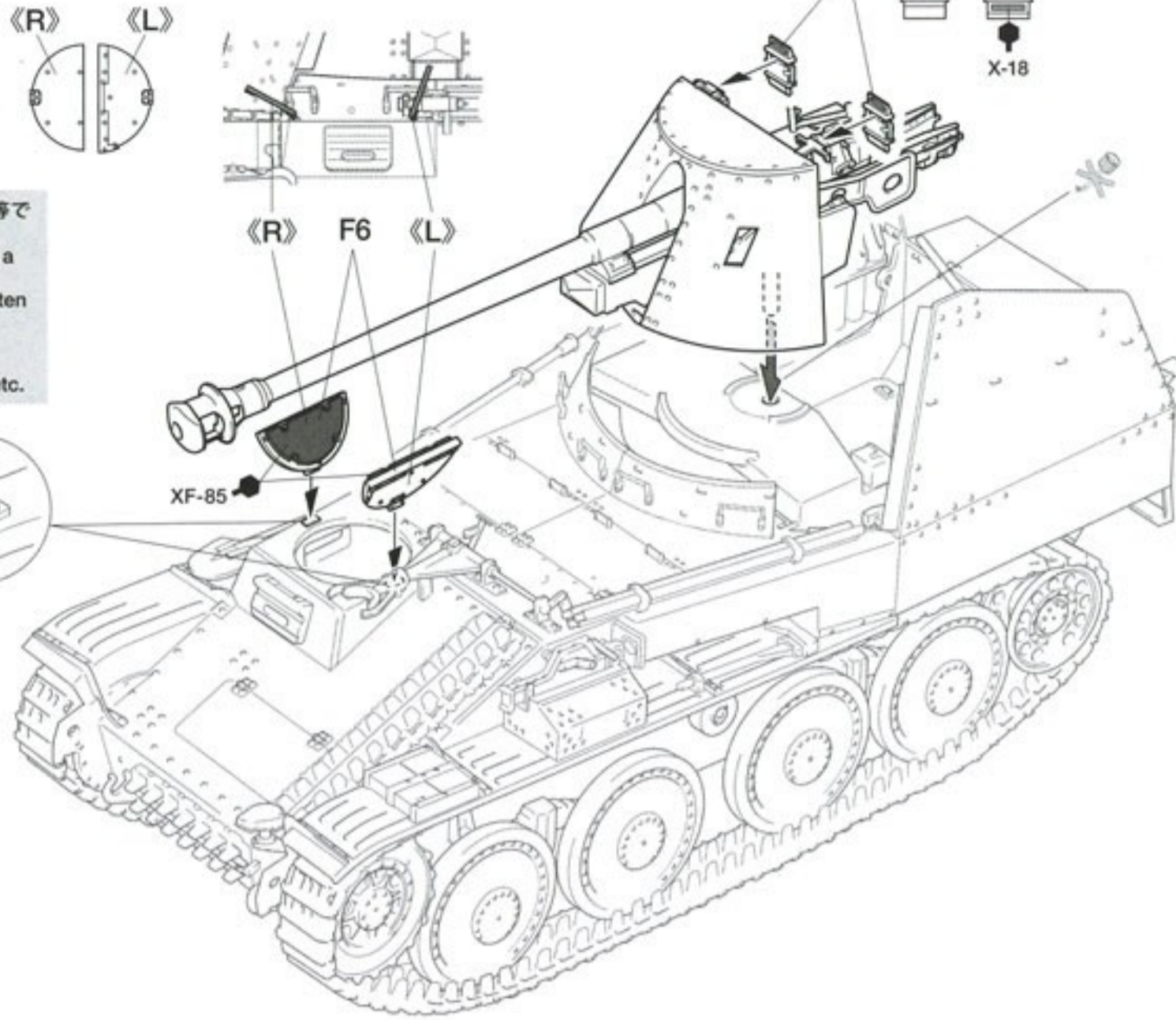
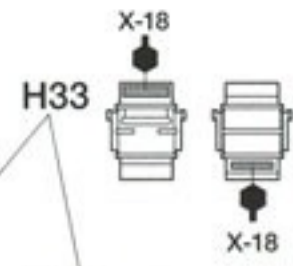


★F6は図のようにナイフ等で2つに切り離します  
 ★Cut F6 as shown using a modeling knife, etc.  
 ★F6 wie gezeigt bearbeiten mit Bastelmesser etc.  
 ★Découper F6 comme montré en utilisant un couteau de modélisme, etc.



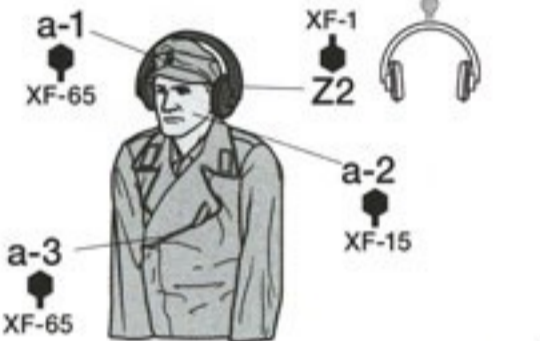
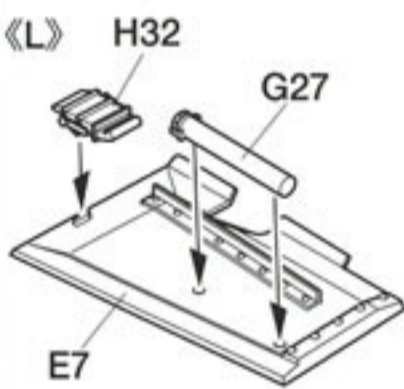
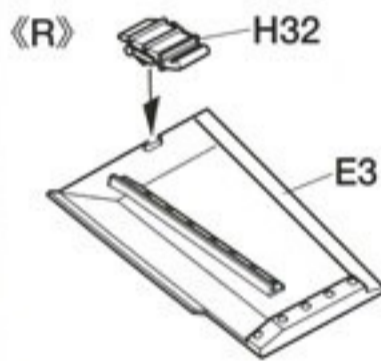
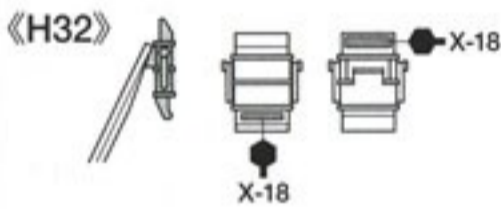
《R》 F6 《L》

XF-85

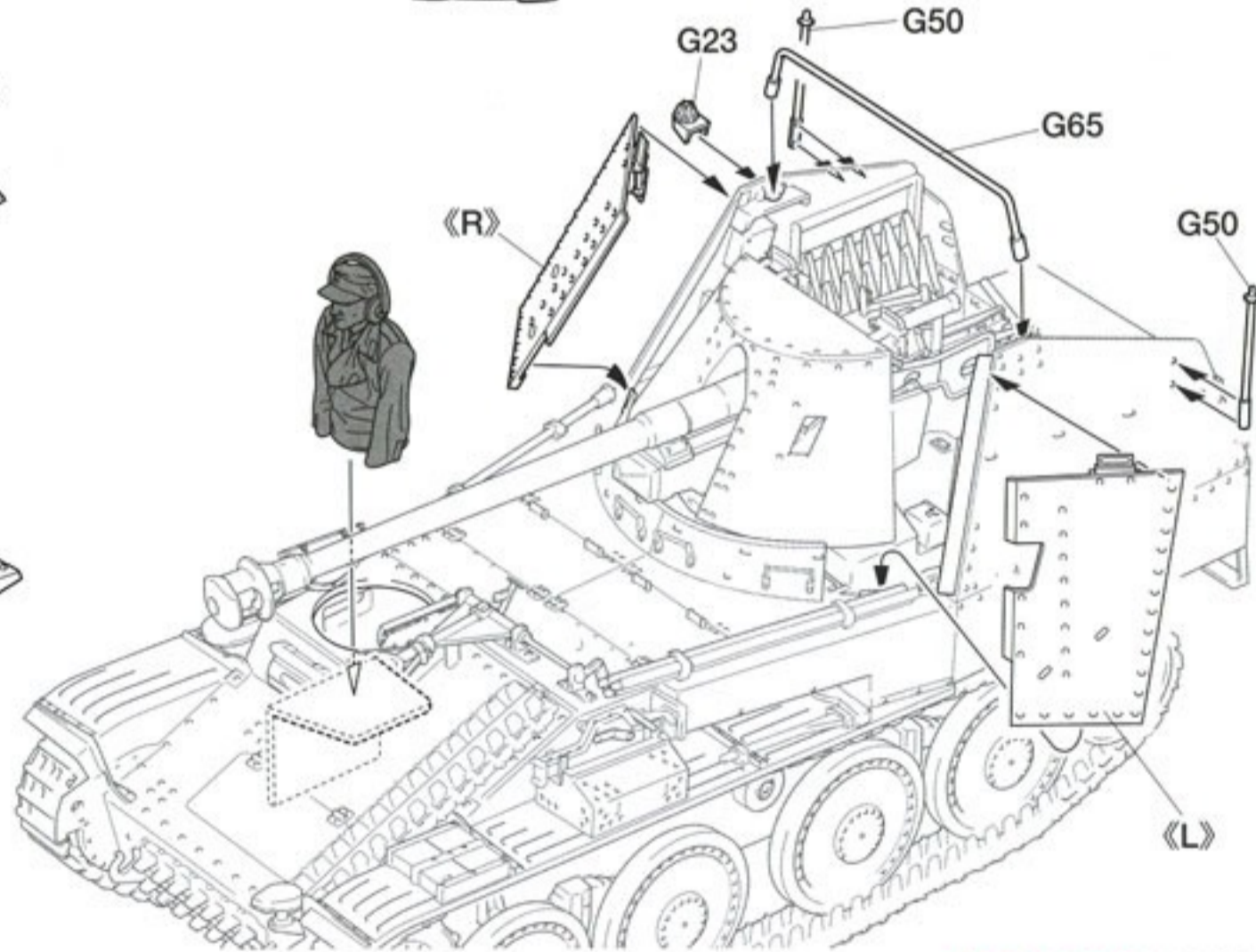


**20** 戦闘室前面装甲板の取り付け  
 Attaching front armor plate  
 Anbringung der vorderen Panzerplatte  
 Fixation de la plaque de blindage frontale

《ドライバー》  
 Driver figure  
 Fahrerfigur  
 Figurine du conducteur



★図のように取り付けます。  
 ★Attach as shown.  
 ★Gemäß Abbildung einbauen.  
 ★Fixer comme indiqué.



### ■ Unfinished Development

As Poland succumbed to a wave of German tanks at the start of WWII, the German war machine appeared a highly modernized force; this impression, however, hid the fact that much of it was still largely untouched by mechanization and - in the case of many infantry units - even motorization.

German planners sought to bolster their infantry for the greater challenges to come: their first effort was the 4.7cm Pak(t)-toting Panzerjäger I. While it was used in the invasion of France and rated highly, its gun and Pz.Kpfw.I chassis were rendered obsolete by Russian foes such as the T34 and KV tanks following the German invasion of Russia in June 1941.

The designers went back to the drawing board, and one of their answers was the Marder III, a tank destroyer based on the Czechoslovak Panzer 38(t) chassis with an open top fighting compartment, and sporting a converted Soviet gun in the shape of the 7.62cm Pak 36(r). Development began in Autumn 1941, and production the following April. 344 were completed at the BMM factory, and some sources suggest up to 84 more were made using 38(t) tanks withdrawn from the front.



### ■ Evolution of the Marder III

Although the Marder III's performance was satisfactory, its reliance on captured guns was not ideal. Thus appeared the Marder III H, which employed the domestically produced 7.5cm Pak 40, and featured an overhauled fighting compartment plus a lower vehicle profile. 275 were manufactured between November 1942 and May 1943, with another 336 conversions from 38(t) tanks (estimates vary).

In fact, 38(t) production had ceased in June 1942 and thereafter the chassis was used exclusively for tank destroyers. Despite this, a dedicated self-propelled gun (SPG) chassis remained desirable for improved performance and production - BMM and Alkett developed one, and in combination with the 7.5cm Pak 40 it was named the Marder III M. A prototype was ready in early 1943, and production commenced that May. 942 of a total order of 1,373 Marder III Ms were built by the end of production in June 1944,

the reduced number reflecting the advent of competitors such as the Hetzer.

### ■ The Marder III Design

On a purpose-designed SPG chassis, the Marder III M had a significantly different layout, the engine housed in the center to allow plenty of space for the gun in the rear fighting compartment and achieving greater overall balance. Its running gear remained largely untouched aside from the reduction to a single rear roller. The crew of four consisted of a commander, gunner, loader and driver. The driver was in the hull front-right, protected by sloped - if somewhat thin - armor, with a raised cover to provide headroom above. Originally rounded cast metal, the cover later became flat welded sheet armor. Hull front armor was also thickened later in production.

The fighting compartment was encircled with 10mm thick armor plate, which represented an upgrade on predecessors, and featured a folding section of the rear plate for use as a platform. The Pak 40 gun had limited rotation and a convex front shield. 6.8kg Pzgr.39 piercing rounds could defeat 106mm, 96mm and 85mm of 30-degree armor at respective distances of 100m, 500m and 1 kilometer, numbers bettered with rarer Pzgr.40 rounds. A total of 100 rounds were carried.

### ■ The Marder III M in Service

Deployment of the Marder III began in independent Tank Destroyer Battalions, and then from Summer 1943 with Panzer Battalions in Panzer Divisions, Panzer Grenadier Divisions and Infantry Divisions. Later they would also be deployed in Panzer Divisions. A typical Tank Destroyer Battalion consisted of three Companies, each with three Platoons operating four Marder III Ms; added to two in each Company HQ and three in the Battalion HQ, this made a total of 45 per Battalion.

As H and M variants were treated as the same it is difficult to give exact numbers of Marder III Ms, but numerous Marder III Ms were present in Normandy after the Allied invasion, as part of the 24th and 352nd Infantry Divisions and the 2nd Panzer Division, among others. The Marder III M had a largely defensive role to play in Normandy against marauding tanks in the inexorable Allied advance.

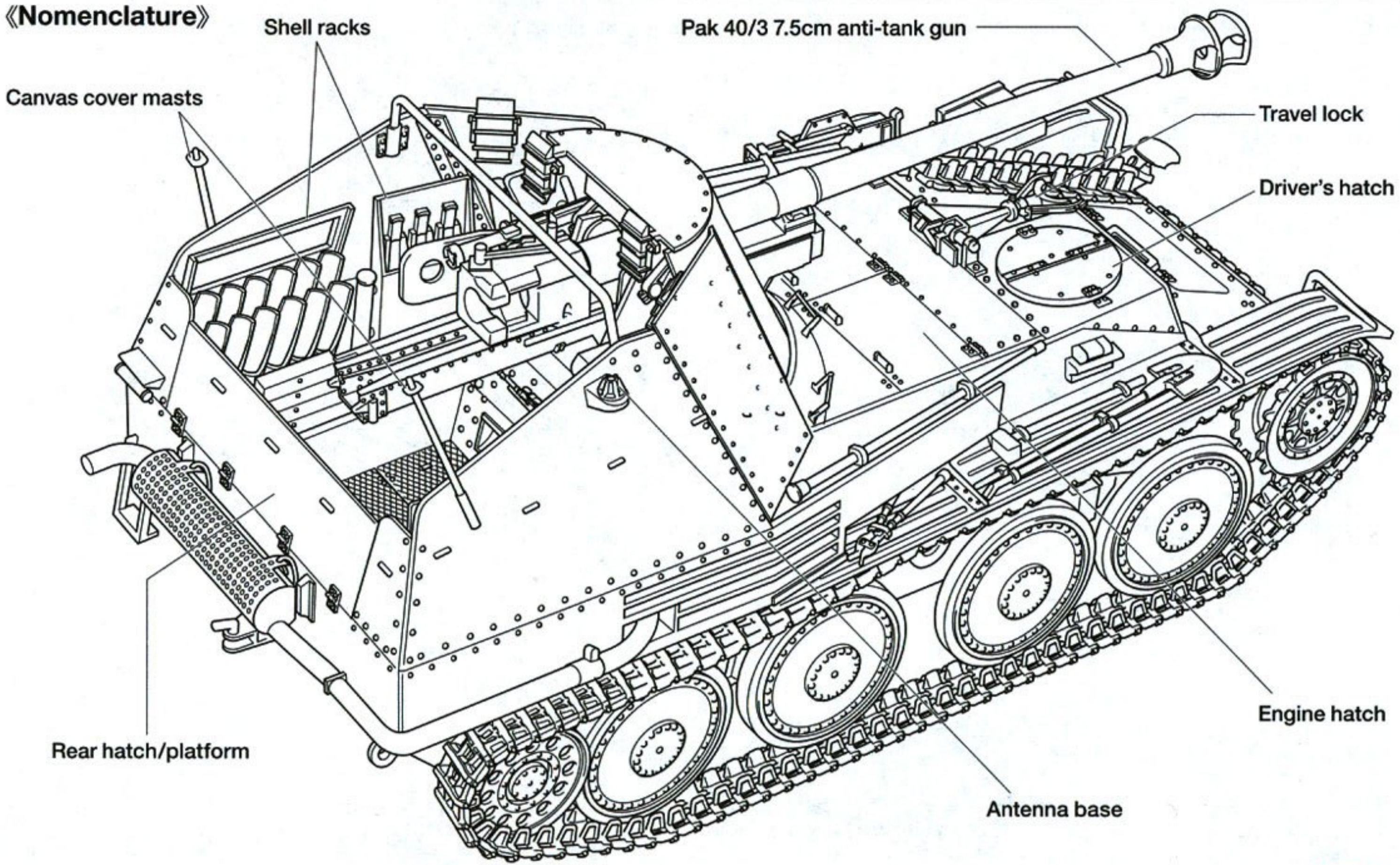
### ■ Marder III M Specifications

- Length: 4.95m ● Width: 2.15m ● Height: 2.48m
- Fully-Loaded Weight: 10.5 tons ● Crew: 4
- Engine: Praga AC gasoline engine
- Maximum Output: 150hp (at 2,600rpm)
- Maximum Speed: 42km/h
- Range (roads): 190km
- Armament: Pak 40/3 7.5cm anti-tank gun x1 & 2 rounds

# GERMAN TANK DESTROYER MARDER III M "NORMANDY FRONT"



## «Nomenclature»



### ■ Nicht abgeschlossene Entwicklung

Als Polen einer Welle von deutschen Panzern unterlag schien es so, dass es sich um eine hochmoderne Armee handelte ; dieser Eindruck verbarg die Tatsache, dass bezüglich der Mechanisierung große Lücken klafften und bei Infanterieeinheiten sogar bei der Motorisierung.

Die deutschen Planer versuchten ihre Infanterie zu stärken für die zu erwartenden Aufgaben; ihr erster Wurf war die 4,7cm Pak(t) in der Form des Panzerjäger I. Während die Fahrzeuge bei der Invasion von Frankreich genutzt und positiv bewertet wurden, waren die Kanone und das Panzer I Chassis nutzlos gegen den Feind mit seinen T-34 und KV Panzern bei dem Angriff auf Russland im Juni 1941.

Die Entwickler kehrten zum Zeichentisch zurück und eine der Antworten war der Marder III, ein Panzerjäger basierend auf dem tschechischen Panzer 38 mit einem oben offenen Kampfraum und ausgestattet mit einer umgebauten sowjetischen Beutekanone, der 7,62mm Pak 36(r). Die Entwicklung begann im Herbst 1941 und die Fertigung im April. 344 Fahrzeuge wurden bei der Firma BMM gebaut und einige Quellen behaupten, es wären 84 Fahrzeuge mehr unter Nutzung von Fahrgestellen der von der Front abgezogenen Panzer 38(t) gewesen.

### ■ Weiterentwicklung des Marder III

Obwohl die Leistung des Marder III ausreichend war, war die Abhängigkeit von der Beutewaffe nicht ideal. Daher erschien der Marder III H mit der 7,5cm Pak 40 aus heimischer Fertigung. Er hatte einen überarbeiteten Kampfraum und war etwas niedriger.

Zwischen November 1942 und Mai 1943 wurden 275 Stück gebaut und vermutlich 336 auf Panzer 38(t) (Angaben variieren).

Tatsächlich endete die Fertigung des Panzer 38(t) im Juni 1942 und danach wurde das Chassis ausschließlich für Panzerjäger verwendet. Ungeachtet dessen wurde ein spezielles Fahrgestell für Panzerjäger gefordert (SPG) für höhere Leistung und vereinfachte Fertigung. BMM und Alkett entwickelten eines und mit der 7,5cm Pak 40 ausgerüstet wurde es Marder III M genannt. Im Frühjahr 1943 war der Prototyp fertig und die Fertigung begann im May. Bis Juni 1944 wurden 942 Fahrzeuge aus einem Auftrag über 1373 Marder III Ms gebaut. Die reduzierte Stückzahl kam durch das Auftauchen von Konkurrenten wie dem Hetzer.

### ■ Die Marder III Auslegung

Auf einem speziell entwickelten SPG Fahrgestell war der Marder III M anders aufgebaut : Der Motor wurde in die Mitte verlegt, um

hinten viel Raum für die Waffe zu schaffen und die Schwerpunkt lage zu optimieren. Das Fahrwerk war nahezu unverändert auf den Rückgang auf nur eine Stützrolle. Die 4-köpfige Besatzung bestand aus einem Kommandanten, einem Richtschützen, einem Lader und einem Fahrer. Der Fahrer war rechts in der Wanne, geschützt von einer schrägen, wenn auch dünnen Panzerung, mit einer erhöhten Luke, um die Kopffreiheit zu verbessern. Im Anfang aus abgerundetem Panzerstahlguss wurde die Luke später aus Panzerstahlblechen geschweißt. Die Panzerung an der Wannenfront wurde später dicker.

Der Kampfraum war rundum aus 10mm dicken Panzerplatten, die einen Vorteil gegenüber den Vorgängern darstellten. Hier gab es eine abklappbare Platte, die als Plattform genutzt werden konnte. Die Pak 40 Kanone hatte einen limitierten Schwenkbereich und ein konvexes Schutzschild. Mit der 6,8kg wiegenden PzGr 39 konnte man 106mm, 96mm und 85mm Panzerstahl unter einem Winkel von 30 Grad auf Entfernungen von 100m, 500m und 1000m. Deutlich besser waren die Werte mit der seltenen PzGr 40. Der Munitionsvorrat betrug 27 Schuss.

### ■ Der Marder III M im Einsatz

Die Marder III kamen in die unabhängigen Panzerjägerbataillone und ab Sommer 1943 in die Panzerbataillone der Panzerdivisionen, Panzergrenadierdivisionen und Infanteriedivisionen. Später kamen sie auch in die SS-Panzerdivisionen.

Da die Varianten H und M gleich behandelt wurden, ist es schwierig, genaue Zahlen der Marder III Ms zu nennen, aber viele Marder IIIs waren in der Normandie bei der alliierten Invasion eingesetzt. Neben anderen, bei der 243ten und 352ten Infanteriedivision, sowie der 2ten Panzerdivision. Der Marder III M spielte eine große Defensivrolle in der Normandie gegen immer wieder auftauchenden Feindpanzer beim unaufhaltsamen Vormarsch der Alliierten.

### ■ Marder III M technische Daten

● Länge: 4.95m ● Width: 2.15m ● Breite: 2.48m

● Gefechtsgewicht: 10.5 tons ● Besatzung: 4

● Motor: Praga AC Motor

● Höchstleistung: 150hp (bei 2,600U/min)

● Höchstgeschwindigkeit: 42km/h

● Fahrbereich (Strasse): 190km

● Bewaffnung: Pak 40/3 7.5cm Panzerabwehrkanone & 27 Schuss

## ■ Développement Incomplet

Lorsque la Pologne succomba aux vagues de tanks allemands au début de la 2<sup>ème</sup> G.M., l'armée allemande apparut comme très moderne ; mais en fait, une grande partie d'entre elle n'était pas encore mécanisée – et même dans le cas de nombreuses unités d'infanterie – motorisée.

Les planificateurs allemands cherchaient à soutenir leur infanterie pour les grands défis futurs : leur premier effort dans ce sens fut le Panzerjäger I avec Pak(t) 47mm. Employé et jugé satisfaisant durant la Bataille de France, son châssis Pz.Kpfw.I et son canon étaient obsolètes face aux tanks T34 et KV suite à l'invasion de la Russie en juin 1941.

Les concepteurs revinrent à la planche à dessin et une de leurs réponses fut le Marder III, un chasseur de chars basé sur le châssis du tank tchécoslovaque Panzer 38(t) avec un compartiment de combat ouvert logeant un canon soviétique converti désigné 7,62cm Pak 36(r). Le développement débuta à l'automne 1941 et la production en avril suivant. 344 sortirent de l'usine BMM, et certaines sources suggèrent que jusque 84 autres furent construits à partir de tanks 38(t) retirés du front.

## ■ Evolution du Marder III

Bien que les performances du Marder III soient satisfaisantes, sa dépendance à des canons capturés n'était pas idéale. En conséquence apparut le Marder III H armé du canon 7,5cm Pak 40 de production nationale, au compartiment de combat remanié et au profil abaissé. 275 furent produits entre novembre 1942 et mai 1943, plus 336 conversions à partir de tanks 38(t) (les estimations varient).

En fait, la production du 38(t) s'était achevée en juin 1942 et son châssis fut ensuite exclusivement réservé à des chasseurs de chars. Malgré cela, un châssis spécifique de canon automoteur restait souhaitable pour améliorer les performances et la production – BMM et Alkett développèrent tel châssis qui associé au 7,5cm Pak 40 donna naissance au Marder III M. Un prototype était prêt début 1943 et la production débuta en mai. 942 sur une commande totale de 1.373 Marder III M furent construits jusque juin 1944, la réduction de la quantité résultant de l'arrivée d'autres engins tels le Hetzer.

## ■ Conception du Marder III

Basé sur un châssis spécifique de canon automoteur, le Marder III M avait une configuration bien différente, le moteur installé au centre libérant beaucoup d'espace pour le canon dans le compartiment de combat situé à l'arrière, et améliorant le centrage des masses. Son train de roulement était pratiquement inchangé à part

la réduction à un seul galet de retour. Quatre hommes constituaient l'équipage : chef de bord, tireur, pourvoyeur et conducteur. Ce dernier était installé à l'avant droit de la caisse protégé par un blindage incliné – mais assez peu épais – avec un capot surélevé pour ménager de l'espace au-dessus de sa tête. L'origine bombé et en métal moulé, le capot devint blindé et en métal laminé soudé. Le blindage à l'avant de la caisse fut également épaissi durant la production.

Le compartiment de combat était ceinturé de plaques de blindage de 10mm d'épaisseur, une amélioration par rapport à ses prédécesseurs, et la plaque arrière repliable servait de plate-forme. Le canon Pak 40 avait une rotation limitée et un bouclier convexe. Ses obus perforants Pzgr.39 de 6,8kg pouvaient traverser 106mm, 96mm et 85mm de blindage incliné à 30 degrés à des distances de 100m, 500m et 1km respectivement, chiffres améliorés avec des obus Pzgr.40 plus rares. 27 obus étaient stockés à bord.

## ■ Weiterentwicklung des Marder III

Le déploiement du Marder III commença dans des bataillons de chasseurs de chars indépendants, puis à partir de l'été 1943 dans les bataillons blindés des divisions blindées, divisions de Panzer Grenadiers et divisions d'infanterie. Plus tard, ils furent également déployés dans les divisions blindées SS. Un bataillon de chasseurs de chars typique était composé de trois compagnies, chacune scindée en trois pelotons opérant quatre Marder III ; deux dans chaque état-major de compagnie et trois dans l'état-major de bataillon, soit un total de 45 par bataillon.

Comme les versions H et M étaient considérées les mêmes, il est difficile de donner les nombres exacts de Marder III M, mais beaucoup de Marder III étaient présents en Normandie après le Débarquement allié, dans les 243<sup>ème</sup> et 352<sup>ème</sup> Divisions d'Infanterie et la 2<sup>ème</sup> Panzer Division, entre autres. En Normandie, le Marder III eut surtout un rôle défensif contre les chars alliés.

## ■ Caractéristiques Marder III M

- Longueur: 4,95m ● Largeur: 2,15m ● Hauteur: 2,48m
- Poids en ordre de combat: 10,5 tonnes ● Equipage: 4
- Moteur: Praga AC à essence
- Puissance maximum: 150cv (à 2.600 trs/min.)
- Vitesse maximum: 42km/h
- Autonomie (sur route): 190km
- Armement: Canon anti-char Pak 40/3 7,5cm x1 & 27 coups

35364 Marder III M Normandie (1/105)

Customers who checked German Tank Destroyer Marder III M 'Normandy Front' (Plastic model) also checked



[3cm Flakvierling 103/38 \(Plastic model\)](#)  
Das Werk  
1/35  
2,295 yen



[M46 Patton \(Plastic model\)](#)  
U.S. Medium Tank M46 Patton  
Takom  
1/35  
5,865 yen



[Messerschmitt Bf109G-6 \(Plastic model\)](#)  
Tamiya  
1/72  
War Bird ...  
1,445 yen



[Totenkopf Division \(Plastic model\)](#)  
Mini Art  
1/35  
1,360 yen



[Leichttraktor Rheinmetall \(Plastic model\)](#)  
ICM  
1/35  
4,590 yen



[M551 Sheridan \(Plastic model\)](#)  
US Airborne Tank M551 Sheridan  
Tamiya  
1/35  
1/35 Milit...  
3,780 yen



[D5-04 IJA Type 99 Army Aircraft \(Plastic model\)](#)  
Wingsy Ki...  
1/48  
6,715 yen



[French R39 Light Infantry \(Plastic model\)](#)  
Hobby Bos...  
1/35  
Fighting ...  
6,375 yen



[Heinkel He111 Z-2 \(Plastic model\)](#)  
Zwilling...  
Hasegawa  
1/72  
5,610 yen



[TBMP T-15 Armata w/57mm Gun \(Plastic model\)](#)  
Panda Hob...  
1/35  
6,375 yen

Close